

愛知県一宮市

林野鷺宮遺跡発掘調査報告書

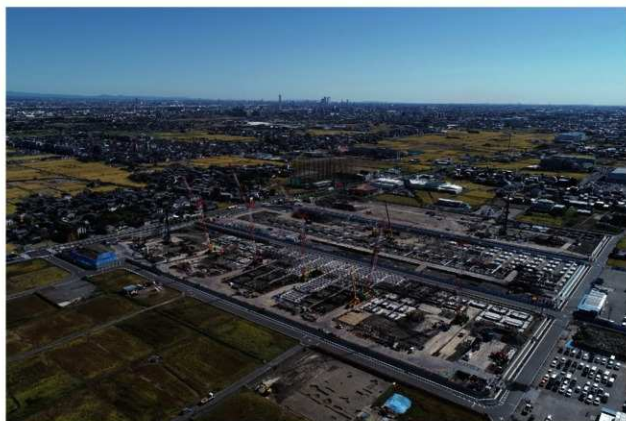
－物流施設建設工事に伴う発掘調査報告書－

令和5年（2023）.10

一 宮 市



1. 1工区 西半部 調査区北部（上が北）



2. 1工区 西半部 調査区全景（南東 伊吹山方面を望む）

巻頭図版 2



3. 1工区 東半部 調査区北部 (上が北)



4. 1工区 東半部 調査区全景 (上が東)

例 言

1. 本書は物流施設建設工事に伴って行った愛知県一宮市萩原町林野字鷺宮 15 番 1 他に所在する林野鷺宮遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査面積・期間・体制は以下のとおりである。

調査面積 2,355 m²
調査期間 令和 4 年 (2022) 7 月 11 日～令和 4 年 (2022) 12 月 3 日
調査体制 監督者 瀧 はる香 (一宮市活力創造部博物館管理課学芸員)
発掘調査員 田邊 一元
発掘作業員 青山隆生、犬飼和枝、大嶽友美、小椋保夫、奥野基史、北出和男、古森敬博、坂口和彦、佐藤睦雄、田黒幸仁、田中敬子、服部勝敏、宮川浩一、武藤悠作、ライアン幸、山本敏男
3. 本報告書の執筆は、第 1 章、第 2 章及び第 3 章第 1 節、第 2 節を田邊一元、第 3 章第 3 節を宮崎直 (株式会社イビソク)、第 4 章を今西菜見 (株式会社イビソク)、附編を小林克也 (パレオ・ラボ) が行い、全体の編集は田中夕佳 (株式会社イビソク) が行った。
4. 遺構写真の撮影については田邊が行い、遺物写真の撮影については横山亮 (オフィスメガネ) が行った。
5. 調査及び報告書をまとめるにあたり、岡本直久氏、河合君近氏 (公益財団法人瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター)、城ヶ谷和広氏 (愛知県埋蔵文化財調査センター) からご教示をいただいた。記して感謝する次第である。
6. 調査に関する資料は、すべて一宮市博物館で保管している。

凡 例

1. 本書で用いた土色は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版 標準土色帖』2016 年度版を使用した。
2. 調査記録の方位及び座標は世界測地系第 VII 系に準拠した。水準高は、東京湾平均海面 (T.P.) を使用している。
3. 本書で使用する遺構番号は、001 からの通番を付け、整理作業時に連番の前に溝 (SD)、柱穴列 (SA)、土坑 (SK) など遺構の属性を付した。
4. 本書で使用する遺物番号は種類を問わず通し番号を付与した。本文・観察表・実測図・写真において同一の番号を使用している。

目次

例言

目次

第1章 位置と環境	1
第1節 遺跡の位置	1
第2節 周辺の遺跡	1
第2章 発掘調査の経緯と経過	3
第1節 発掘調査に至る経緯	3
第2節 調査調査の方法と経過	4
第3章 調査の成果	6
第1節 基本層序	6
第2節 遺構	9
第3節 遺物	19
第4章 まとめ	21
附編 自然科学分析	23

図版目次

第1図 周辺遺跡分布図	2	第17図 SK0119平面図・断面図	14
第2図 調査区配置図	3	第18図 SK0131平面図・断面図	14
第3図 グリッド配置図	5	第19図 SK0168平面図・断面図	15
第4図 1工区全体図(1_400)	6	第20図 SK0189平面図・断面図	16
第5図 基本層序1	7	第21図 SK0207平面図・断面図	16
第6図 基本層序2	8	第22図 SK0227平面図・断面図	16
第7図 SA0001エレベーション図	9	第23図 SK0237平面図・断面図	17
第8図 SK0002平面図・断面図	10	第24図 4工区全体図(1_400)	17
第9図 SK0003平面図・断面図	10	第25図 SK0282平面図・断面図	18
第10図 SK0043・SK0044平面図・断面図	11	第26図 SK0287平面図・断面図	18
第11図 SK0053平面図・断面図	12	第27図 SK0291平面図・断面図	18
第12図 SK0056平面図・断面図	12	第28図 遺物実測図	20
第13図 SK0065平面図・断面図	12	第29図 林野鷲宮遺跡出土の編組製品の 光学顕微鏡写真	24
第14図 SK0078平面図・断面図	12		
第15図 SK0117平面図・断面図	14		
第16図 SK0118平面図・断面図 ・網代出土状況	14		

表目次

第1表	林野鷺宮遺跡出土の編組製品の樹種同定結果	23
第2表	遺構観察表	25
第3表	遺物観察表	33

写真目次

写真1	遺構検出	4	写真2	遺構掘削	4
-----	------	---	-----	------	---

写真図版

巻頭図版1	1. 1工区 西半部 調査区北部 (上が北)	22. 1工区 SK0044 完掘状況 (西から)	
	2. 1工区 西半部 調査区全景 (南東 伊吹山方面を望む)	23. 1工区 SK0053 土層断面状況 (南東から)	
巻頭図版2	3. 1工区 東半部 調査区北部 (上が北)	24. 1工区 SK0053 土層断面状況 (北西から)	
	4. 1工区 東半部 調査区全景 (上が東)	写真図版4	25. 1工区 SK0053 遺物出土状況 (南東から)
写真図版1	1. 1工区 調査区 土層断面状況1 (南東から)	26. 1工区 SK0053 完掘状況 (南東から)	
	2. 1工区 調査区 土層断面状況2 (南東から)	27. 1工区 SK0056 土層断面状況 (南西から)	
	3. 1工区 調査区 土層断面状況 (北西から)	28. 1工区 SK0056 土層断面状況 (北東から)	
	4. 1工区 調査区 土層断面状況 (南西から)	29. 1工区 SK0056 完掘状況 (南西から)	
	5. 1工区 SA0001 完掘状況 (上が北)	30. 1工区 SK0065 土層断面状況 (南西から)	
	6. 1工区 P0086 土層断面状況 (西から)	31. 1工区 SK0065 土層断面状況 (北東から)	
	7. 1工区 P0087 土層断面状況 (西から)	32. 1工区 SK0065 完掘状況 (西から)	
	8. 1工区 P0087 遺物出土状況 (南西から)	写真図版5	33. 1工区 SK0078 土層断面状況 (南西から)
写真図版2	9. 1工区 P0088 土層断面状況 (西から)	34. 1工区 SK0078 土層断面状況 (北東から)	
	10. 1工区 P0089 土層断面状況 (西から)	35. 1工区 SK0078 遺物出土状況 (南から)	
	11. 1工区 SK0002 土層断面状況 (西から)	36. 1工区 SK0078 完掘状況 (西から)	
	12. 1工区 SK0002 土層断面状況 (東から)	37. 1工区 SK0117 土層断面状況 (南西から)	
	13. 1工区 SK0002 完掘状況 (南西から)	38. 1工区 SK0117 土層断面状況 (北東から)	
	14. 1工区 SK0003 土層断面状況 (南東から)	39. 1工区 SK0117 完掘状況 (東から)	
	15. 1工区 SK0003 土層断面状況 (北西から)	40. 1工区 SK0118 土層断面状況 (北東から)	
	16. 1工区 SK0003 完掘状況 (西から)	写真図版6	41. 1工区 SK0118 土層断面状況 (南西から)
写真図版3	17. 1工区 SK0043 土層断面状況 (南東から)	42. 1工区 SK0118 遺物出土状況 (東から)	
	18. 1工区 SK0043 土層断面状況 (北西から)	43. 1工区 SK0118 完掘状況 (東から)	
	19. 1工区 SK0043 完掘状況 (西から)	44. 1工区 SK0119 土層断面状況 (南東から)	
	20. 1工区 SK0044 土層断面状況 (南東から)	45. 1工区 SK0119 土層断面状況 (北西から)	
	21. 1工区 SK0044 土層断面状況 (北西から)	46. 1工区 SK0119 完掘状況 (東から)	
		47. 1工区 SK0131 土層断面状況 (北東から)	

- | | | | |
|--------|-------------------------------|---------|------------------------------|
| | 48. 1 工区 SK0131 土層断面状況 (南西から) | 写真図版 9 | 65. 1 工区 SK0237 完掘状況 (東から) |
| 写真図版 7 | 49. 1 工区 SK0131 完掘状況 (東から) | | 66. 2 工区 調査区全景 (上が東) |
| | 50. 1 工区 SK0168 土層断面状況 (北東から) | | 67. 2 工区 調査区 土層断面状況 (東から) |
| | 51. 1 工区 SK0168 土層断面状況 (南西から) | | 68. 3 工区 調査区全景 (上が東) |
| | 52. 1 工区 SK0168 完掘状況 (東から) | | 69. 3 工区 調査区 土層断面状況 1 (北西から) |
| | 53. 1 工区 SK0189 土層断面状況 (北から) | | 70. 3 工区 調査区 土層断面状況 2 (北西から) |
| | 54. 1 工区 SK0189 遺物出土状況 (北東から) | | 71. 4 工区 調査区全景 (上が東) |
| | 55. 1 工区 SK0189 完掘状況 (東から) | | 72. 4 工区 調査区 土層断面状況 1 (南東から) |
| | 56. 1 工区 SK0207 土層断面状況 (北東から) | 写真図版 10 | 73. 4 工区 調査区 土層断面状況 2 (南東から) |
| 写真図版 8 | 57. 1 工区 SK0207 土層断面状況 (南西から) | | 74. 4 工区 SK0287 土層断面状況 (南から) |
| | 58. 1 工区 SK0207 完掘状況 (東から) | | 75. 4 工区 SK0282 土層断面状況 (西から) |
| | 59. 1 工区 SK0227 土層断面状況 (北から) | | 76. 4 工区 SK0282 完掘状況 (南西から) |
| | 60. 1 工区 SK0227 土層断面状況 (南から) | | 77. 4 工区 SK0287 土層断面状況 (西から) |
| | 61. 1 工区 SK0227 土層断面状況 (東から) | | 78. 4 工区 SK0287 完掘状況 (西から) |
| | 62. 1 工区 SK0227 完掘状況 (西から) | | 79. 4 工区 SK0291 土層断面状況 (東から) |
| | 63. 1 工区 SK0237 土層断面状況 (南西から) | | 80. 4 工区 SK0291 完掘状況 (東から) |
| | 64. 1 工区 SK0237 土層断面状況 (北東から) | 写真図版 11 | 出土遺物 |

第1章 位置と環境

第1節 遺跡の位置

一宮市は、木曾川・長良川・掛斐川・庄内川など多くの河川によって形成された日本有数の沖積平野である濃尾平野のほぼ中央部に位置する。濃尾平野はその地形から、標高50m前後の犬山市域を扇頂部とする大山扇状地、標高10mから2m前後までに広がる自然堤防とその後背湿地域、それより標高の低い三角州域という3つの地形に分類することができる。一宮市は、市域の北東端部が大山扇状地に属するものの、それ以外の大部分は自然堤防とその後背湿地域に属しており、林野鶯宮遺跡も同地域に位置している。

第2節 周辺の遺跡

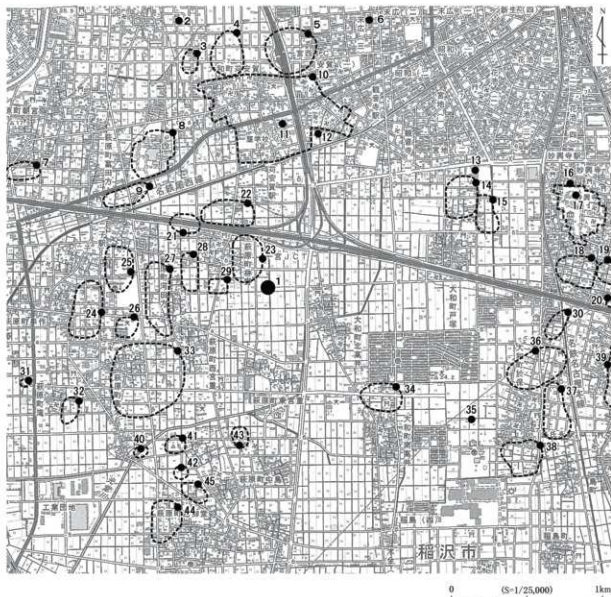
林野鶯宮遺跡(1)は、前述した地域に立地しており、詳細には後背湿地域にあたる。本遺跡周辺には、日光川水系によって形成された自然堤防上に多くの遺跡が確認されており、萩原遺跡群と呼称されている。ここでは、近隣の主だった遺跡に限って時代順に概括する。

当該地域において遺跡が確認できるのは、弥生時代に入ってからである。弥生時代の前期には、八王子遺跡(5)や山中遺跡(8)において環濠や竪穴建物などが確認されている。弥生時代中期になると、八王子遺跡では規模が拡大し、中期後葉頃に埋納されたと考えられる銅鐸も出土している。一方で、山中遺跡では営みの痕跡は消失し、南方の雀戸遺跡(9)や南木戸遺跡(21)、苗代遺跡(28)、ニタ子遺跡(25)や河田遺跡(26)へと集落が展開され、弥生時代後期まで続く。弥生時代後期の八王子遺跡では、地点を変えながら集落が存続するものの、規模は縮小の一途を辿る。時期を同じくして、山中遺跡では大規模な墓域が形成される。

弥生時代終末期から古墳時代の初頭にかけて、八王子遺跡の様相は一変し、集落域の増加とともに大型建物とそれを区画する溝が構築されるが、この隆盛は古墳時代前期までに終焉を迎える。こうした様相は、山中遺跡をはじめとする前掲の遺跡でも同様な動向が伺える。その後、古墳時代後期以降には八王子遺跡や山中遺跡で群集墳の存在が確認されたことから、墳丘が削平されて埋没した古墳がより多く存在した可能性も指摘されている。

古代には、律令制の行政区画がしかれ、本遺跡を含む周辺地域は中嶋郡に属した。八王子遺跡では集落の営みが続き、地域の中心地としての様相を示す。寺院の造営は各地で行われ、本遺跡周辺でも7世紀代に薬師堂跡(7)、8世紀代に中島廃寺(41)が建造されている。

中世に入ると、15世紀後葉頃から周辺における中心地は八王子遺跡から菊安賀遺跡(13)へと変動する。永祿4年(1561)には菊安賀遺跡の南に菊安賀城跡(11)が築城される。南方では、中島廃寺の東側に中島中世墓遺跡(43)が位置し、灰や骨片が入った常滑焼の壺が6点円形に配され、その中央に四耳壺が据えられた状態で確認されており、中世期墓制の一端を垣間見ることができる。



- | | | | | |
|---------------|--------------|--------------|---------------|-----------|
| 1. 林野鷲宮遺跡 | 2. 伝治越遺跡 | 3. 薬師堂跡 | 4. 齊宮寺遺跡 | 5. 八王子遺跡 |
| 6. 田島遺跡 | 7. 朝宮集落南遺跡 | 8. 尾張病院山中遺跡 | 9. 雀戸遺跡 | 10. 菊安賀遺跡 |
| 11. 菊安賀城跡 | 12. 北川田遺跡 | 13. 下り松遺跡 | 14. 戸塚集落北遺跡 | |
| 15. 妙興寺集落西遺跡 | 16. 妙興寺境内地遺跡 | 17. 妙興寺跡 | 18. 妙興寺集落南遺跡 | |
| 19. 仏供田遺跡 | 20. 氏永畑遺跡 | 21. 南木戸遺跡 | 22. 林野集落北遺跡 | |
| 23. 林野集落東遺跡 | 24. 串作集落東遺跡 | 25. 二夕子遺跡 | 26. 萩原中学校河田遺跡 | |
| 27. 河田方集落西遺跡 | 28. 苗代遺跡 | 29. 大門先遺跡 | 30. 四之宮遺跡 | 31. 瀧神社古墳 |
| 32. 滝集落東遺跡 | 33. 高木遺跡 | 34. 南高井集落北遺跡 | 35. 於保宮前遺跡 | |
| 36. 於保集落北遺跡 | 37. 於保集落東遺跡 | 38. 於保集落南遺跡 | 39. 氏永集落東遺跡 | 40. 東川田遺跡 |
| 41. 中島廃寺 | 42. 廻畑遺跡 | 43. 中島中世墓遺跡 | 44. 西御堂集落西遺跡 | |
| 45. 中島住遷添西切遺跡 | | | | |

(国土地理院発行 1/25,000 地形図「一宮」をもとに作成)

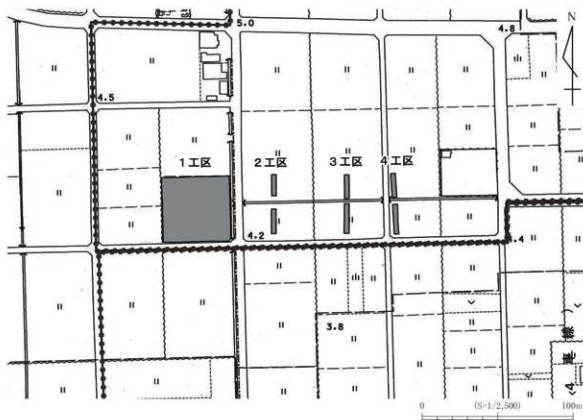
第1図 周辺遺跡分布図

第2章 発掘調査の経緯と経過

第1節 発掘調査に至る経緯

アートプラン株式会社は、愛知県一宮市萩原町林野字鷺宮15番1他において、物流施設建設工事を計画した(第2図)。計画に先立って本調査地を含む周辺地域は、周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったが、周辺の遺跡分布状況も鑑みて、埋蔵文化財の有無の確認をすべく事前調査が一宮市によって行われた。その結果、埋蔵文化財の存在が確認されたことにより、施工前に埋蔵文化財発掘調査が必要となった。

本調査は、文化財保護法第93条第1項に基づき令和4年(2022)3月23日付で届け出された物流施設建設工事に伴い、株式会社イビソクがアートプラン株式会社より委託を受けた。そこで、アートプラン株式会社・一宮市・株式会社イビソクの三者で令和4年(2022)6月14日に三者協定を締結し、愛知県に文化財保護法第92条第1項に基づき、埋蔵文化財発掘調査の届出を令和4年(2022)6月17日付で提出した。届出の受理をうけて、一宮市の指導、監督のもとに、アートプラン株式会社の委託を受けた株式会社イビソクを主体として、発掘調査、整理作業、報告書作成を行うこととなった。



第2図 調査区配置図(一宮市都市計画基本図を改変)

第2節 調査調査の方法と経過

発掘調査は、令和4年(2022)7月11日から令和4年(2022)12月3日まで行った。調査地は全部で4か所あり、西から順に1～4工区の名称を付した(第2図)。各調査区の面積は、1工区が1,995㎡、2～4工区はそれぞれ120㎡である。1工区から順に調査を行い、排土置場の問題から東半部と西半部に分けて反転調査を行った。グリッド調査を行うため、世界測地系直角平面座標第Ⅶ系に基づいて、4か所の調査区全体を覆うように5mグリッドを設定した。X=-79801.0、Y=-35381.0の座標点をグリッドの北西角起点として、東西方向にアラビア数字を1から順に、南北方向にアルファベットをAから順に配した(第3図)。各グリッドの呼称は、『A1』のようにアルファベットを先頭とした。遺物の取り上げは、包含層掘削や遺構検出時はグリッドごと、遺構掘削時は遺構ごとに行った。遺構の記録は、土層断面、遺物出土状況、完掘写真の記録撮影を一眼レフデジタルカメラで行った。遺構実測については、トータルステーションによる3次元測量と、デジタルオルソ測量、手実測を併用して行った。以下、調査日誌の主な部分のみ抜粋する。

調査日誌抄録

令和5年(2023)

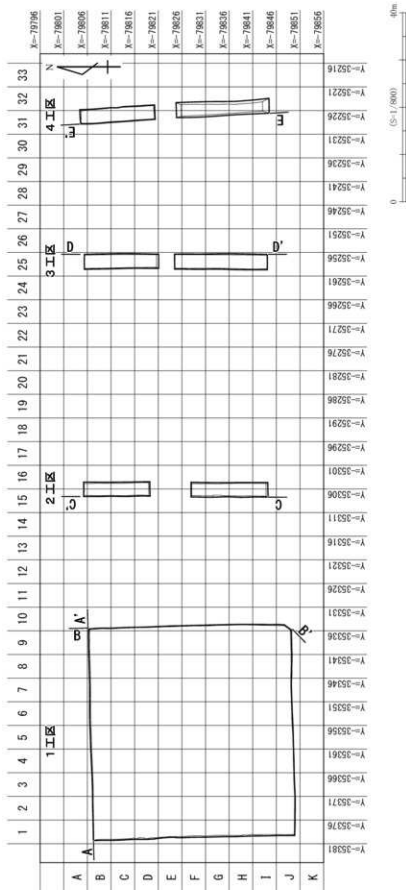
7月11日	重機・資機材搬入、基準点水準測量。	10月27日	2工区表土掘削開始。
7月14日	仮囲い設置。	10月31日	遺構検出、遺構掘削開始。
7月20日	一宮市による調査区設定確認。	11月2日	調査区清掃、空中写真撮影、埋め戻し。
7月22日	1工区表土掘削開始。	11月5日	3工区、4工区表土掘削開始。
8月1日	1工区東半部作業開始。	11月7日	遺構検出開始。
8月22日	遺構検出開始。	11月8日	遺構掘削開始。
9月1日	遺構掘削開始。	11月9日	調査区清掃、空中写真撮影、記録作業。
9月21日	調査区清掃、空中写真撮影、記録作業。	11月10日	埋め戻し。
9月27日	1工区西半部遺構検出開始。	11月14日	撤収作業開始。
9月28日	遺構掘削開始。	12月3日	撤収作業完了。
10月20日	調査区清掃、空中写真撮影、記録作業。	12月7日	一宮市による現場完了確認。
10月21日	1工区埋め戻し。		



写真1 遺構検出



写真2 遺構掘削

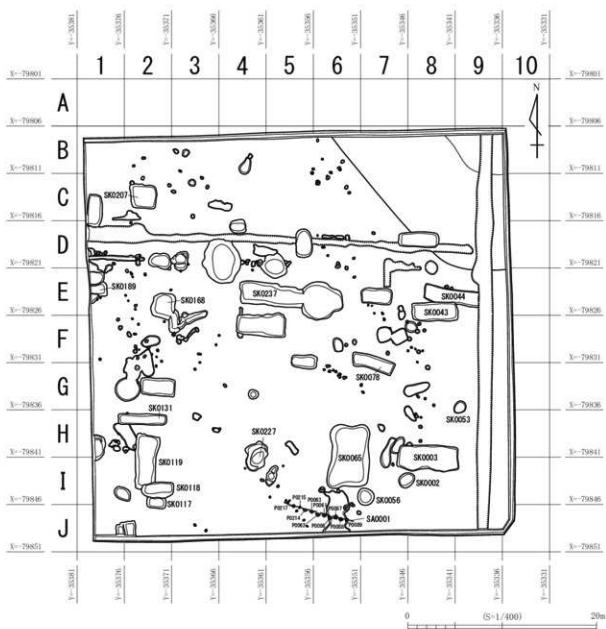


第3図 グリッド配置図

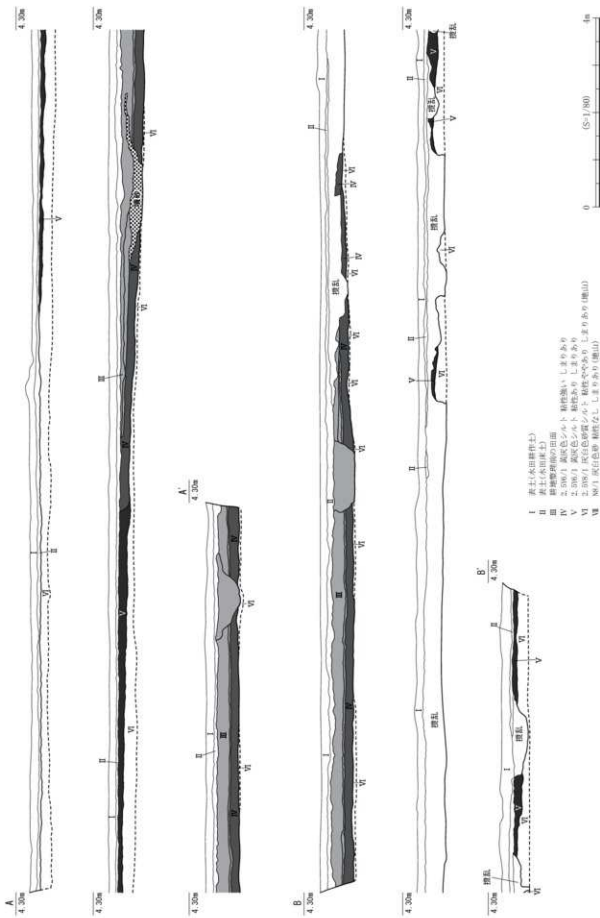
第3章 調査の成果

第1節 基本層序

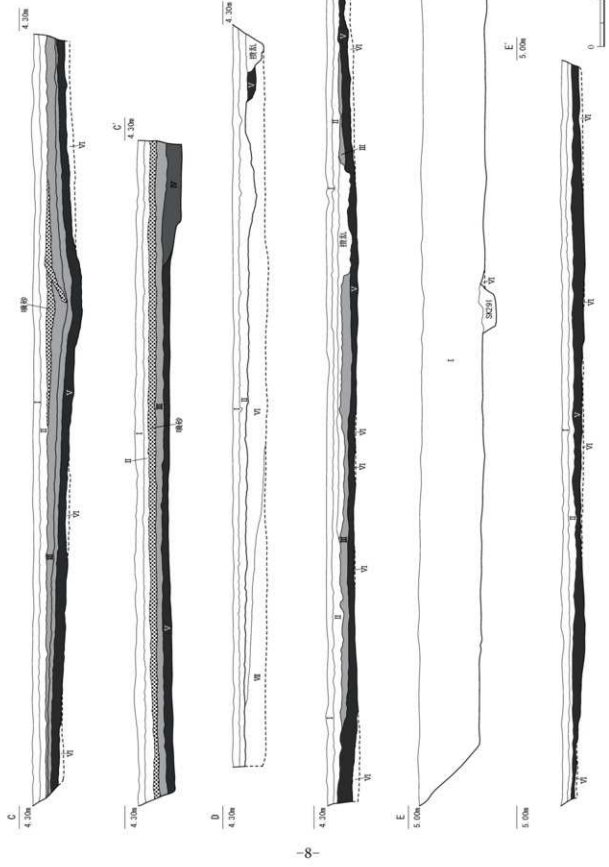
本調査における基本層序（第5・6図）は大きく7層に分別することができる。第I層は表土で、現代の水田耕作土である。第II層は現代の水田床土である。第III層は耕地整理前の田面である。1工区の北東部と2、3工区にかけて確認できた堆積層である。第IV層は黄灰色シルト層で、1工区の6グリッドライン以東から2工区にかけて確認できた堆積層である。第V層は黄灰色シルト層で、第IV層と比較して粘性が弱いことが特徴である。第VI層は灰白色砂質シルト層で、地山である。遺構検出は第VI層上面で行っている。第VII層は灰白色砂層で、地山である。下層確認を行った3工区でのみ確認できた堆積層である。



第4図 1工区全体図



第5図 基本断り1



第6圖 基本附件 2

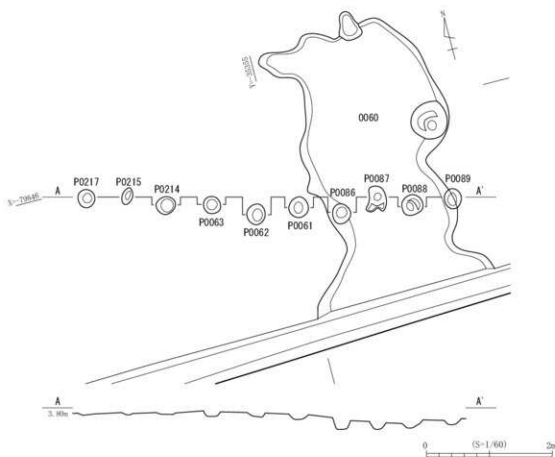
第2節 遺構

本調査で確認した遺構は285基であり、その内訳は柱穴列1基、土坑107基（そのうち方形土坑25基）、ピット178基（柱穴列を構成するピットを含む）である。本節では、主要な遺構について記述し、その他の遺構については第2表の遺構観察表を参照されたい。

(1) 柱穴列 (SA)

SA0001 (第7図)

SA0001は1工区のJ5・6グリッドで確認した遺構である。P0061・P0062・P0063・P0086・P0087・P0088・P0089・P0214・P0215・P0217の10基によって構成され、その柱間は約0.7mである。軸方向はN-75°-Wである。各柱穴の平面形は、ほぼ円形である。各柱穴の規模は、長径0.3~0.4m、短径0.3m、深さ0.02~0.27m程度である。SA0001は、出土遺物から8世紀後半頃の遺構である。

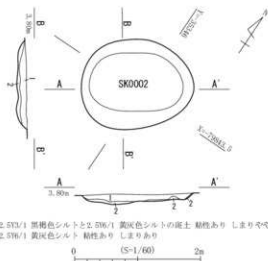


第7図 SA0001エレベーション図

(2) 土坑 (SK)

SK0002 (第8図)

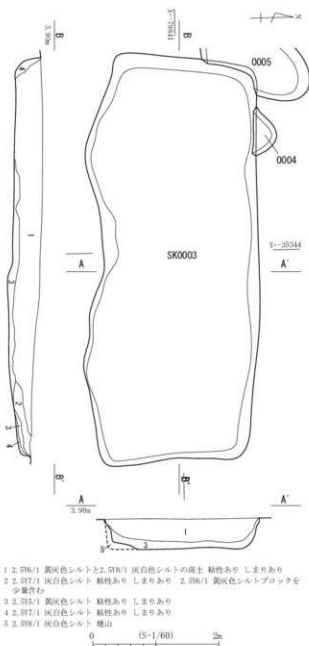
SK0002は、1工区のI7・8グリッドで確認した遺構である。平面形は楕円形である。軸方向は $N-54^{\circ}-E$ である。規模は長さ1.79m、最大幅1.42m、深さ0.19mである。断面形は皿形である。埋土は黄灰色シルトと灰白色シルトの斑土を主体とする。SK0002は、遺物が出土しなかったことから、時期を特定できない。



第8図 SK0002平面図・断面図

SK0003 (第9図)

SK0003は、1工区のH7・8・9、I7・8・9グリッドで確認した遺構である。平面形は方形であるが、遺構の南辺は遺構機能時の湧水による崩落によって、直線的ではない。軸方向は $N-87^{\circ}-W$ である。規模は長さ6.35m、最大幅2.71m、深さ0.58mである。断面形は箱形である。埋土は黄灰色シルトと灰白色シルトの斑土を主体とし、床面直上には水成堆積層が確認できる。SK0003は方形土坑であり、出土遺物から12世紀後半～13世紀頃の遺構である。



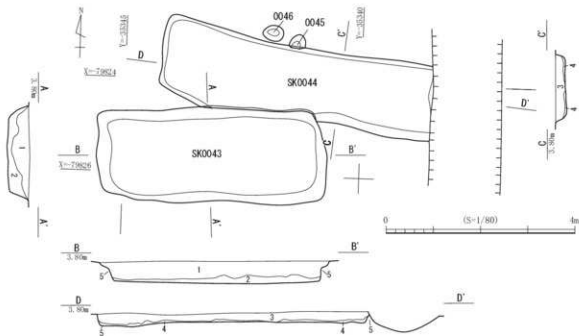
第9図 SK0003平面図・断面図

SK0043 (第10図)

SK0043は、1工区のE8・9、F8・9グリッドで確認した遺構である。平面形は方形である。軸方向は $N-88^{\circ}-E$ である。規模は長さ4.88m、最大幅2.01m、深さ0.52mである。断面形は箱形である。埋土は黄灰色シルトと灰白色シルトの斑土を主体とし、床面直上には水成堆積層が確認できる。SK0043は方形土坑である。遺物は土師器と片口鉢が出土したが小破片のため器種・時期ともに不明である。

SK0044 (第10図)

SK0044は、1工区のE8・9グリッドで確認した遺構である。平面形は方形である。軸方向は $N-81^{\circ}-W$ である。遺構の東側を掘削によって壊されているため、確認規模で長さ5.78m、最大幅1.63m、深さ0.28mであり、他の方形土坑と比



- 1 2.53/6/1 黄灰色シルトと2.53/8/1 灰白色シルトの斑土 粘性あり しまりあり
- 2 2.53/7/1 灰白色砂質シルト 粘性あり しまりあり
- 3 2.53/3/1 黒褐色シルトと2.53/6/1 黄灰色シルトと2.53/8/1 灰白色シルトの斑土 粘性あり しまりあり
- 4 2.53/7/1 灰白色砂質シルト 粘性あり しまりあり 2.53/6/1 黄灰色シルトブロックを少量含む
- 5 2.53/8/1 灰白色シルト 礫山

第10図 SK0043・SK0044平面図・断面図

較して長軸に対して短軸が狭い。断面形は箱形である。埋土は黄灰色シルトと灰白色シルトの斑土を主体とし、床面直上には水成堆積層が確認できる。SK0044は方形土坑である。遺物は須恵器と灰軸陶器が出土したが、小破片のため器種・時期ともに不明である。

SK0053 (第11図)

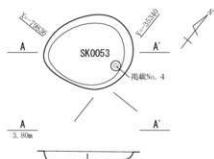
SK0053は、1工区のG8・9、H8・9グリッドで確認した遺構である。平面形は楕円形である。軸方向はN-47°-Eである。規模は長さ1.43m、最大幅1.17m、深さ0.27mである。断面形は皿形である。埋土は黄灰色シルトと灰白色シルトの斑土を主体とする。SK0053は、出土遺物から12世紀後葉～13世紀初頭頃の遺構である。

SK0056 (第12図)

SK0056は、1工区のI6・7、J7グリッドで確認した遺構である。平面形は楕円形である。軸方向はN-33°-Wである。規模は長さ1.86m、最大幅1.77m、深さ0.16mである。断面形は皿形である。埋土は黄灰色シルトと灰白色シルトの斑土を主体とする。SK0056は、遺物が出土しなかったことから、時期を特定できない。

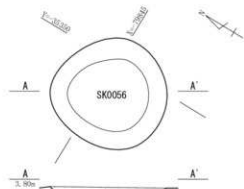
SK0065 (第13図)

SK0065は、1工区のH6・7、I6・7グリッドで確認した遺構である。平面形は方形であるが、遺構の四辺は遺構機能時の湧水による崩落によって、直線的ではない。軸方向はN-2°-Eである。規模は長さ6.78m、最大幅4.15m、深さ0.66mである。断面形は箱形である。埋土は黄灰色シルトと灰白色シルトの斑土を主体とし、床面直上には水成堆積層が確認できる。SK0065は方形土坑であり、出土遺物から14世紀末～15世紀前葉頃の遺構である。



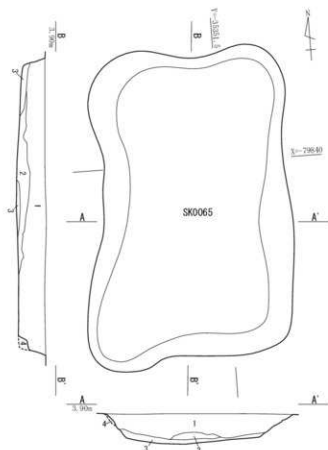
1. 035/1 黄灰色シルトと2. 038/1 灰白色シルトの混土 粘性あり しまりあり

第11図 SK0053平面図・断面図



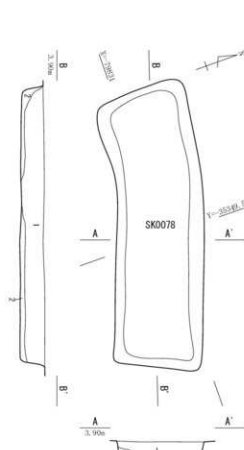
1. 035/1 黄灰色シルトと2. 038/1 灰白色シルトの混土 粘性あり しまりあり

第12図 SK0056平面図・断面図



1. 035/1 黄灰色シルトと2. 038/1 灰白色シルトの混土 粘性あり しまりあり
 2. 036/1 黄灰色シルト 粘性あり しまりあり
 3. 037/1 灰白色シルト 粘性あり しまりあり
 4. 038/1 灰白色シルト 堆山

第13図 SK0065平面図・断面図



1. 036/1 黄灰色シルトと2. 038/1 灰白色シルトの混土 粘性あり しまりあり
 2. 037/1 灰白色シルト 粘性あり しまり弱い (水成堆積層)

第14図 SK0078平面図・断面図

SK0078(第14図)

SK0078は、1工区のF6・7、G6・7グリッドで確認した遺構である。平面形は方形であるが、遺構の西側はやや南に向かって湾曲しており、長軸は直線的ではない。軸方向はN-69°-Wである。規模は長さ4.46m、最大幅1.39m、深さ0.44mである。断面形は箱形である。埋土は黄灰色シルトと灰白色シルトの斑土を主体とし、床面直上には水成堆積層が確認できる。SK0078は方形土坑であり、出土遺物から14世紀末～15世紀中頃の遺構である。

SK0117(第15図)

SK0117は、1工区のI2、J2グリッドで確認した遺構である。平面形は方形である。軸方向はN-85°-Wである。規模は長さ2.04m、最大幅1.25m、深さ0.48mである。断面形は箱形である。埋土は黄灰色シルトと灰白色シルトの斑土を主体とし、床面直上には水成堆積層が確認できる。SK0117は方形土坑である。遺物は山茶碗が出土したが、小破片のため器種・時期ともに不明である。

SK0118(第16図)

SK0118は、1工区のI2・3グリッドで確認した遺構である。平面形は方形であるが、遺構の南辺は遺構機能時の湧水による崩落によって、直線的ではない。軸方向はN-90°-Eである。規模は長さ3.47m、最大幅1.61m、深さ0.58mである。断面形状は箱形である。埋土は黄灰色シルトと灰白色シルトの斑土を主体とし、床面直上には水成堆積層が確認できる。SK0118は方形土坑である。遺物は山茶碗と網代が出土したが、小破片のため器種・時期ともに不明である。

SK0119(第17図)

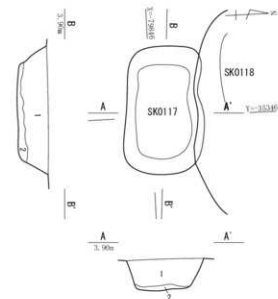
SK0119は、1工区のH2、I2グリッドで確認した遺構である。平面形は方形であるが、遺構の南辺は遺構機能時の湧水による崩落によって、直線的ではない。軸方向はN-1°-Eである。規模は長さ5.83m、最大幅2.55m、深さ0.52mである。断面形は箱形である。埋土は黄灰色シルトと灰白色シルトの斑土を主体とし、床面直上には水成堆積層が確認できる。SK0119は方形土坑である。遺物は山茶碗が出土したが、小破片のため器種・時期ともに不明である。

SK0131(第18図)

SK0131は、1工区のH1・2グリッドで確認した遺構である。平面形は方形であるが、遺構の南辺は遺構機能時の湧水による崩落によって、直線的ではない。軸方向はN-89°-Wである。規模は長さ5.09m、最大幅1.11m、深さ0.34mであ他のり、方形土坑と比較して長軸に対して短軸が狭い。断面形は箱形である。埋土は黄灰色シルトと灰白色シルトの斑土を主体とし、床面直上には水成堆積層が確認できる。SK0131は方形土坑である。遺物は山茶碗と常滑製品が出土したが、小破片のため器種・時期ともに不明である。

SK0168(第19図)

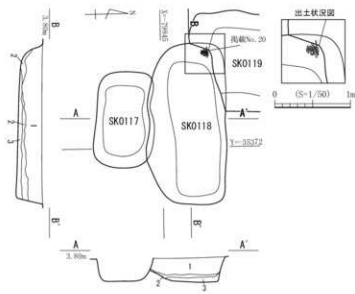
SK0168は、1工区のE2・3、F2・3グリッドで確認した遺構である。平面形は隅丸方形である。軸方向はN-14°-Eである。規模は長さ2.70m、最大幅2.43m、深さ0.42mであり、長軸と短軸がほぼ同距離であることが特徴である。断面形は逆台形である。埋土は黄灰色シルトと灰白色シルトの斑土を主体とし、床面直上には水成堆積層が確認できる。SK0168は方形土坑であり、出土遺物から12世紀後葉～13世紀前葉頃の遺構である。



- 1 2.575/1 黄灰色シルトと2.578/1 灰白色シルトの混土 粘性あり しまりあり
 2 2.576/1 黄灰色シルト 粘性あり しまり弱い (水成堆積層)

0 (S-1/60) 2m

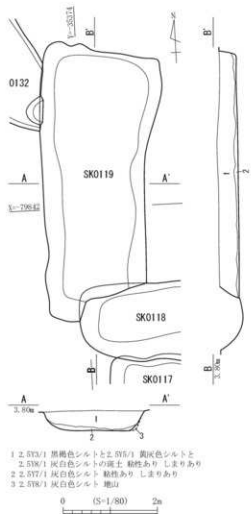
第15図 SK0117平面図・断面図



- 1 2.573/1 黒褐色シルトと2.576/1 灰白色シルトの混土 粘性あり しまりあり
 2 2.576/1 黄灰色シルト 粘性あり しまりややあり 2.573/1 黒褐色シルトブロックを少量含む
 3 2.577/1 灰白色シルト 粘性あり しまりややあり

0 (S-1/80) 2m

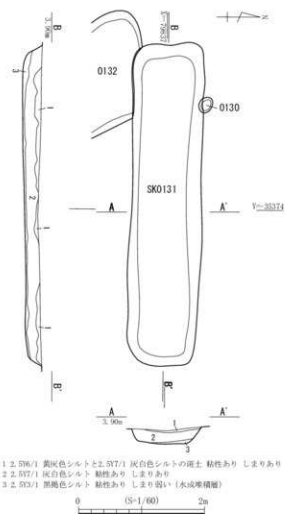
第16図 SK0118平面図・断面図・網代出土状況図



- 1 2.573/1 黒褐色シルトと2.575/1 黄灰色シルトと
 2.578/1 灰白色シルトの混土 粘性あり しまりあり
 2 2.577/1 灰白色シルト 粘性あり しまりあり
 3 2.578/1 灰白色シルト 地山

0 (S-1/80) 2m

第17図 SK0119平面図・断面図



- 1 2.576/1 黄灰色シルトと2.577/1 灰白色シルトの混土 粘性あり しまりあり
 2 2.577/1 灰白色シルト 粘性あり しまりあり
 3 2.573/1 黒褐色シルト 粘性あり しまり弱い (水成堆積層)

0 (S-1/60) 2m

第18図 SK0131平面図・断面図

SK0189 (第 20 図)

SK0189 は、1 工区の E 1 グリッドで確認した遺構である。平面形は方形と考えられるが、調査区西壁際で確認しており、遺構は調査区外へと広がっていること、遺構の北側を SK0188 によって壊されているため全容は不明である。軸方向は $N-90^{\circ}-E$ である。残存規模は長さ 1.80 m、最大幅 1.52 m、深さ 0.558 m である。断面形は逆台形である。埋土は黄灰色シルトと灰白色シルトの斑土を主体とし、床面直上には水成堆積層が確認できる。

SK0189 は方形土坑であり、出土遺物から 15 世紀頃の遺構である。

SK0207 (第 21 図)

SK0207 は、1 工区の C 2 グリッドで確認した遺構である。平面形は方形である。

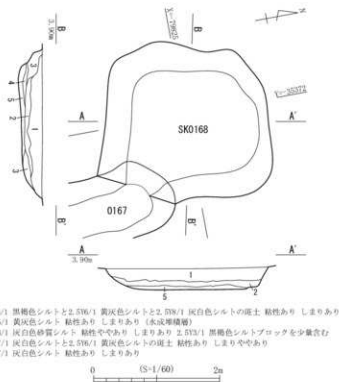
軸方向は $N-2^{\circ}-E$ である。規模は長さ 2.67 m、最大幅 2.45 m、深さ 0.35 m である。断面形は箱形である。埋土は黄灰色シルトと灰白色シルトの斑土を主体とし、床面直上には水成堆積層が確認できる。SK0207 は方形土坑である。遺物は山茶碗と伊勢型鍋が出土したが、小破片のため図化していない。出土遺物から 13 世紀頃の遺構である。

SK0227 (第 22 図)

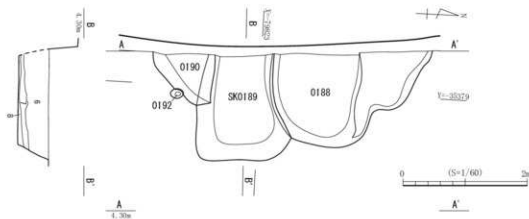
SK0227 は、1 工区の H 4・5、I 4 グリッドで確認した遺構である。平面形は不定形である。軸方向は $N-13^{\circ}-W$ である。規模は長さ 3.16 m、最大幅 1.94 m、深さ 0.67 m である。断面形は、長軸の両端が緩く斜めに落ち込み、中央部分が深くなる 2 段階落ちのような形状である。埋土は黄灰色シルトと灰白色シルトの斑土を主体とする。SK0227 は、遺物は山茶碗が出土したが、小破片のため器種・時期ともに不明である。

SK0237 (第 23 図)

SK0237 は、1 工区の E 4・5 グリッドで確認した遺構である。平面形は方形であるが、遺構の東側を攪乱によって壊されているため、全容は不明である。軸方向は $N-84^{\circ}-W$ である。規模は長さ 6.55 m、最大幅 2.40 m、深さ 0.50 m である。断面形は箱形である。埋土は黄灰色シルトと灰白色シルトの斑土を主体とし、床面直上には水成堆積層が確認できる。SK0237 は方形土坑であり、出土遺物から 13 世紀後葉～14 世紀前葉頃の遺構である。



第19図 SK0168平面図・断面図



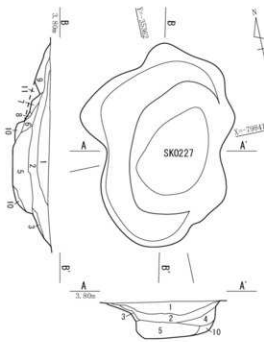
- | | |
|---|---|
| 1 2.5106/1 黄灰色シルト 粘性あり しまりあり | 6 2.5176/1 黄灰色シルトと2.5178/1 灰白色シルトの硬土 粘性あり しまりあり |
| 2 2.5138/1 灰白色砂質シルト 粘性ややあり しまりあり 1.5138/1 黄灰色シルト
ブロックを少量含む | 7 2.5177/1 灰白色シルト 粘性あり しまりあり |
| 3 2.5171/1 灰白色シルト 粘性あり しまりややあり | 8 2.5176/1 黄灰色シルト 粘性あり しまりややあり (水流堆積層) |
| 4 2.5171/1 灰白色シルト 粘性あり しまりあり 2.5176/1 黄灰色シルトブロックを
少量含む | 9 2.5176/1 黄灰色シルトと2.5178/1 灰白色シルトの硬土 粘性あり しまりあり |
| 5 2.5171/1 灰白色シルト 粘性あり しまりあり | 10 2.5171/1 灰白色シルト 粘性あり しまりややあり (水流堆積層) |
| | 11 2.5138/1 灰白色シルト 地山 |

第20図 SK0189平面図・断面図



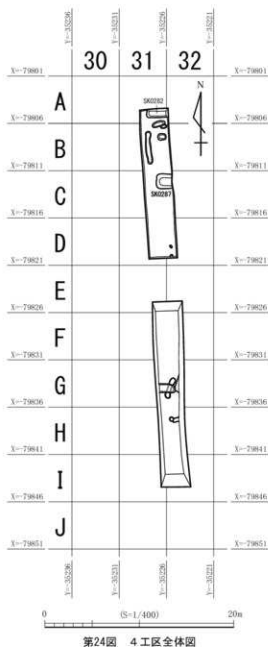
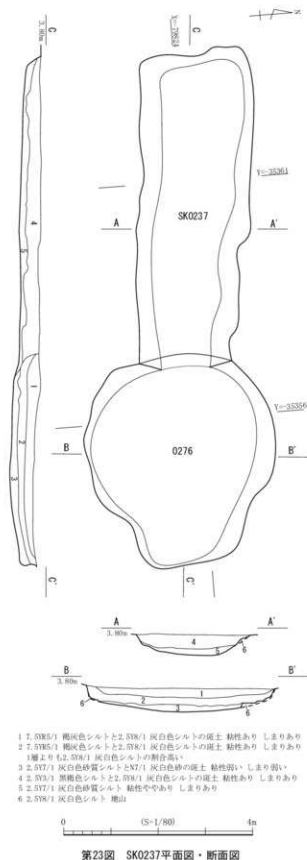
- | |
|---|
| 1 2.5106/1 黄灰色シルトと2.5138/1 灰白色シルトの硬土 粘性あり しまりあり |
| 2 2.5171/1 灰白色砂質シルト 粘性あり しまりあり |

第21図 SK0207平面図・断面図



- | |
|--------------------------------|
| 1 2.5136/1 黄灰色シルト 粘性あり しまりあり |
| 2 2.5141/1 黄灰色シルト 粘性あり しまりあり |
| 3 2.5171/1 灰白色シルト 粘性あり しまりあり |
| 4 2.5171/1 黄灰色シルト 粘性あり しまりあり |
| 5 2.5138/1 灰白色シルトブロックを少量含む |
| 6 2.5135/1 黄灰色シルト 粘性強い しまりあり |
| 7 2.5171/1 灰白色シルト 粘性あり しまりあり |
| 8 2.5176/1 黄灰色シルト 粘性あり しまりあり |
| 9 2.5177/1 灰白色シルト 粘性ややあり しまりあり |
| 10 N7/1 灰白色砂質シルト 粘性ややあり しまりあり |
| 11 2.5138/1 灰白色シルト 地山 |

第22図 SK0227平面図・断面図



SK0282 (第25図)

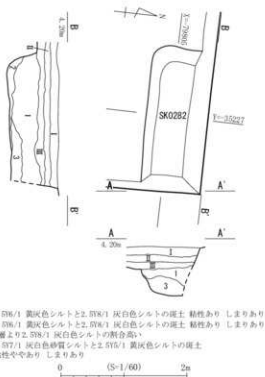
SK0282は、4工区のA 31・32グリッドで確認した遺構である。平面形は方形と考えられるが、遺構の東側と北側が調査区外へと広がっているため、全容は不明である。軸方向はN-88°-Eである。残存規模は長さ2.17m、最大幅0.80m、深さ0.38mである。断面形は箱形である。埋土は黄灰色シルトと灰白色シルトの斑土を主体とする。SK0282は方形土坑であるが、遺物が出土しなかったことから、時期を特定できない。

SK0287 (第26図)

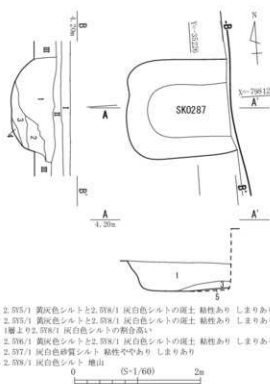
SK0287は、4工区のC 31・32グリッドで確認した遺構である。平面形は方形と考えられるが、遺構の東側が調査区外へと広がっているため、全容は不明である。軸方向はN-88°-Wである。規模は長さ1.61m、最大幅1.51m、深さ0.38mである。断面形は逆台形である。埋土は黄灰色シルトと灰白色シルトの斑土を主体とする。SK0287は方形土坑であるが、遺物が出土しなかったことから、時期を特定できない。

SK0291 (第27図)

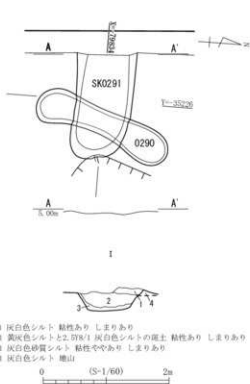
SK0291は、4工区のG 31・32グリッドで確認した遺構である。平面形は方形と考えられるが、遺構の西側が調査区外へと広がっているため、全容は不明である。軸方向はN-87°-Wである。規模は長さ1.65m、最大幅0.92m、深さ0.62mである。断面形は逆台形である。埋土は黄灰色シルトと灰白色シルトの斑土を主体とし、床面直上には水成堆積層が確認できる。SK0291は方形土坑であるが、遺物が出土しなかったことから、時期を特定できない。



第25図 SK0282平面図・断面図



第26図 SK0287平面図・断面図



第27図 SK0291平面図・断面図

第3節 遺物

遺物は270のコンテナで5箱出土した。以下、種別・器種ごとに出土遺物の概要をまとめる。

本調査区内から検出された遺構の付与年代は以下の出土資料から、概ね6世紀代～15世紀代まで幅広く。しかし12世紀後半から15世紀代の遺物が多く出土しているため、この時期が中心と言えよう。

なお、各遺物についての詳細は、第3表の遺物観察表を参照されたい。

1・2は須恵器である。1は蓋杯の身である。口縁部と底部は欠損し、破片である。I-101号窯式である。2は有台杯である。胴部下半～高台が残存し、外面底部に線刻がある。O-10号窯式である。

3は灰釉陶器の皿であり、底部は欠損している。K-14～K-90号窯式にあたる。

4～8は山茶碗である。4～6は碗である。4は高台が底部より、やや内に入り、胴部から高台にかけて緩やかに稜が入る。渥美湖西型第5型式である。5は高台の立ち上がりが認められるものの、幅が狭くなっている。東濃型大畑大洞4号窯期である。6は高台が底部よりも内に入り、底部内面がくぼみ、器壁が薄い。東濃型大洞東1号窯期である。7・8は小皿で、口縁部が外反せず、胴部が直線的に開く。東濃型大洞東1号窯期である。8の底部には墨書が見られるが、詳細は不明である。

9～13は陶器である。9は片口鉢である。内面一部使用による摩耗がみられ、尾張型第5もしくは第6型式であろう。10は壺か瓶子である。肩部から胴部の一部の残存で、古瀬戸前期様式と思われる。11は花瓶である。胴部下半～底部が残存しており、古瀬戸後期様式後半にあたる。12は三筋壺である。外面沈線を施し、降灰が一部ハクリしている。産地は不明である。13は甕である。胴部の一部が残存し破片である。常滑産である。12・13はどちらも詳細な年代は不明である。

14・15は青磁である。鎗蓮弁文がみられるが、どちらも破片である。産地は不明である。

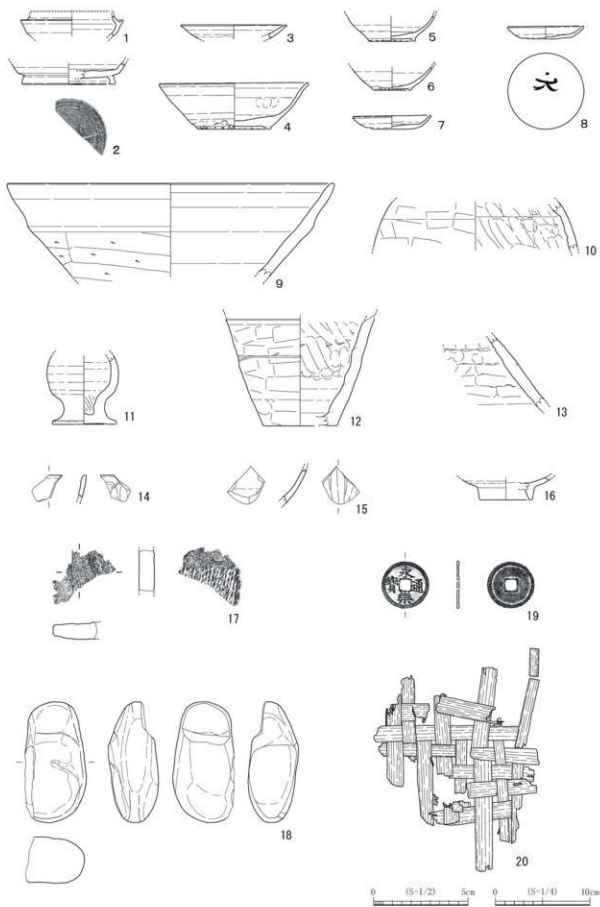
16は白磁である。高台が残存しており、産地は不明である。

17は古代瓦の平瓦である。凸面に縄目タタキを施す。凹面には布目痕と模骨痕が残る。側面はへら切りである。

18は紙石である。ほぼ全面使用しており、左側面は欠損後も使用した後が見受けられる。

19は銅銭で永楽通寶である。

20は木製品で網代である。1本越え、1本潜り、1本送りの四ツ目編みで編んでおり、残存状況は良好である。



第28图 遗物実測図

第4章 まとめ

本調査では285基の遺構を検出し、278のコンテナに5箱分の遺物が出土した。285基の遺構のうち、主だった遺構は25基の方形土坑と10基のピットによって構成される柱穴列である。また大部分の遺構が1工区にて確認されており、本稿ではこの部分に焦点を充てて記述する。

本調査区の基本層序はⅠ～Ⅶ層であるが、このうちⅦ層は下層確認を行うため、深く掘削した3工区でのみ確認されており、1工区の基本層序からは除外して考えたい。上層に位置するⅠ～Ⅲ層は近現代以降の水田に係る層である。その下に堆積するⅣ・Ⅴ層は1工区内で広く分布するものの、それぞれ部分的な広がりを示す。これらの切り合い関係を見ると、Ⅳ層がⅤ層を掘りこんでいる様相が確認できる。なお、遺構検出はこの下のⅥ層上面で行っている。

今回の調査で確認できた遺構は全般的に浅いものが多い。上述した方形土坑は40～70cmほどの深さを持つものが目に付くが、その他の遺構は数センチから10cm前後と浅いものが多いことが分かる。これらからⅣ及びⅤ層も水田開墾を行った痕跡の層であり、その際にⅤ層(地山)を削平している可能性が考えられよう。Ⅴ層をⅣ層が掘りこんでいるが、それぞれの層厚が同じ厚さに揃えるかのように面を構築しており、後世の掘削痕というよりは田面の再構築といった性格と考える方が自然であり、これらもⅣ・Ⅴ層が水田を営む作業に係る層である根拠になり得るともいえる。

このような後世に削平を受けながらも、今日まで残存し得た遺構が上述の方形土坑ともいえるのだが、これらの方形土坑の目的や意図は、今回の調査でも結論づける根拠は確認できなかった。この周辺の遺跡や東海地方の他地域においても方形土坑の確認はされているが、その目的と意図ははっきりと分かっていない。共通する点は、同一エリアの方形土坑の軸が揃っていること、断面形が箱形であること、床面は平坦であるという点である。単一層で埋没している遺構も見受けられる。また遺物は包含していないことが多い。そしてその時期を中世にされている遺構が多いのも特徴と言える。これらを考慮に入れて、本調査の方形土坑を見てみると、断面形が箱形を呈し、床面は平坦であるものの、単一層で埋没していないものが多い。床面付近には黄灰色もしくは灰白色のシルト層が数センチから10cm前後で堆積しており、これらの大部分が水成堆積であることが確認できた。調査中は検出面より40cmほど掘削すると湧水することもあったため、遺構底面に水が溜まりやすかったことは容易に想像できる。他地域では貯蔵穴としての機能も検討されていることもあり、湧水する土地で貯蔵を目的としているとは考え難く、これらの方形土坑と同様に検討するのは難しいと言える。

今回の調査で出土した遺物は6～15世紀代と幅広いが、その大部分を占めるのは12世紀後半から15世紀代の遺物であり、これらからも上述の方形土坑と辻褄が合うとも考えられよう。それらの中には1点であるが古代瓦の平瓦が出土しており、古代には中嶋郡に含まれていた本調査地が、ここより南東に位置する中島廃寺、北北西に位置する薬師堂廃寺との関わりの痕跡として見て取れる。この他にも渥美湖西系の山茶碗、鎮連弁文を持つ青磁片、白磁片も若干数含まれており、古代から中世にかけて物の流通といった往来があったと考えられる痕跡をいくつか確認することが出来ている。本調査地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったものの、小さいながらもこうした痕跡をいくつか確認することができた。今後のこの地域の調査の一考となれば幸いです。

【引用・参考文献】

- 愛知県教育委員会 1994 『愛知県遺跡地図(Ⅰ)尾張地区』 愛知県教育委員会
- 愛知県史編さん委員会編 2007 『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 瀬戸系』 愛知県
- 愛知県史編さん委員会編 2012 『愛知県史 別編 窯業3 中世・近世 常滑系』 愛知県
- 愛知県史編さん委員会編 2015 『愛知県史 別編 窯業1 古代 猿投系』 愛知県
- 一宮市 1967『新編一宮市史 資料編2』
- 一宮市 1974『新編一宮市史 資料編4』
- 一宮市 1977『新編一宮市史 本文編 上』
- 續伸一郎 2022 「第7章 貿易陶磁器 第2節 中世後期の貿易陶磁器」『新版 概説 中世の土器・陶磁器』 真陽社
- 永井久美男 2002 『新版 中世出土銭の分類図版』 高志書院
- 服部信博編 1992 『山中遺跡』 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第40集
- 樋上昇編 2002 『八王子遺跡』 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第92集
- 山本智子 2022 「第3章 山茶碗」『新版 概説 中世の土器・陶磁器』 真陽社
- 山本信夫 2022 「第7章 貿易陶磁器 第1節 中世前期の貿易陶磁器」『新版 概説 中世の土器・陶磁器』 真陽社

附編 自然科学分析

林野鷲宮遺跡出土の編組製品の樹種同定

小林克也 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

愛知県一宮市の林野鷲宮遺跡から出土した編組製品の樹種同定を行った。

2. 試料と方法

試料は、SK0118 遺構から出土した編組製品 1 試料である。試料は編組製品の体部で、編み方は四つ目編み、発掘調査所見による推定時期は、古代から中世頃とされている。同定は、編み方向の異なるへぎ材 2 試料について行った (図版 1-1)。各試料について、切片採取前に木取りの確認を行なった。

樹種同定では、材の横断面 (木口)、接線断面 (板目)、放射断面 (柾目) について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行なった。

3. 結果

同定の結果、試料はいずれも針葉樹のヒノキであった。同定結果を第 1 表に示す。

第 1 表 林野鷲宮遺跡出土の編組製品の樹種同定結果

試料 No.	遺物 No.	地区	グリッド	遺構名	器種	部位	編み方	樹種	木取り	時期
1	0109	1 区	J2・J3	0118	編組製品へぎ材①	体部	四つ目編み	ヒノキ	割り裂き	古代～中世
2	0109	1 区	J2・J3	0118	編組製品へぎ材②	体部	四つ目編み	ヒノキ	割り裂き	古代～中世

以下に、同定された材の特徴を記載し、図版 1 に光学顕微鏡写真を示す。

(1) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 図版 1 2a-2d(No. 1)、3a-3d(No. 2)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、高さ 1～15 列である。分野壁孔はトウヒ～ヒノキ型で、1 分野に 2 個みられる。

ヒノキは福島県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材はやや軽軟で加工しやすく、強度に優れ、耐朽性が高い。

4. 考察

編組製品のへぎ材は、いずれも針葉樹のヒノキであった。ヒノキは木理通直でまっすぐに生育する加工性の良い樹種である (伊東ほか, 2011)。へぎ材は、厚さ 1mm 程度、幅 15mm 程度のテープ状であり、幅 15mm 程度の板目板を作成し、テープ状に割り裂いて作製されたと考えられる。

全国で出土した古代以降の編組製品をみると、素材にはスギやヒノキ、タケ亜科などが利用されており、今回の試料も、全国の傾向と一致する (伊東・山田編, 2012)。

【引用・参考文献】

伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和徳 (2011) 日本有用樹木誌, 238p, 海青社.

伊東隆夫・山田昌久編 (2012) 木の考古学—出土木製品用材データベース—, 449p, 海青社.

佐々木由香・小林和貴・鈴木三男・能城修一 (2014) 下宅部遺跡の編組製品および素材束の素材からみた縄文時代の植物利用. 国立歴史民俗博物館研究報告, 187, 323-345.



1. 試料採取位置, 2a-2d. ヒノキ (No. 1), 3a-3d. ヒノキ (No. 2)

a: 横断面 (スケール=250 μm), b: 接線断面 (スケール=100 μm), c: 放射断面 (スケール=25 μm), d: 試料写真

第29図 林野窟宮遺跡出土の編組製品の光学顕微鏡写真

第2表 遺構観察表

遺構名	工区	Gr.	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	重複関係	備考
0001								捜乱のため欠番
0002	1	17・18	1.79	1.42	0.19	楕円形		
0003	1	H7・H8・H9・ 17・18・19	6.35	2.71	0.58	方形	0004,0005→0003	
0004	1	H7・H8	0.78	0.37	0.10	円形	0004→0003	
0005	1	H7	1.96	0.95	0.13	方形	0006→0005→0003	
0006	1	H7・17	3.27	1.10	0.05	楕円形	0006→0005	
0007	1	17	0.34	0.24	0.09	楕円形		
0008								欠番
00009	1	H8	0.33	0.31	0.07	円形		
0010	1	H8	0.40	0.34	0.05	楕円形		
0011	1	H8	0.21	0.18	0.02	楕円形		
0012	1	H8	0.44	0.28	0.02	楕円形		
0013	1	H8	0.23	0.19	0.03	楕円形		
0014	1	H8	0.18	0.17	0.01	円形	0016→0014	
0015	1	H7	0.19	0.16	0.02	楕円形	0016→0015	
0016	1	G7・G8・H7・H8	1.83	0.82	0.05	楕円形	0016→0014,0015	
0017	1	H7	0.31	0.27	0.04	楕円形	0018→0017	
0018	1	H7	0.76	0.61	0.03	楕円形	0018→0017	
0019	1	G8	0.29	0.24	0.09	楕円形		
0020	1	G8	0.25	0.23	0.04	円形		
0021	1	G8	0.25	0.21	0.04	楕円形	0022→0021	
0022	1	G8	0.20	(0.19)	0.04	円形	0022→0021	
0023	1	G7・G8	2.85	1.19	0.07	楕円形		
0024	1	G8	0.52	0.41	0.06	楕円形		
0025	1	F8・G8	0.23	0.16	0.03	楕円形		
0026	1	F8	0.21	0.02	0.03	円形		
0027	1	F8	0.40	0.37	0.04	円形		
0028	1	F8	0.22	0.16	0.07	楕円形		
0029	1	F8	0.23	0.21	0.08	円形		
0030	1	F7・F8	0.21	0.20	0.04	円形		
0031	1	F7	0.44	0.35	0.10	楕円形		
0032								欠番
0033	1	F8	0.34	0.31	0.04	円形		
0034	1	F8	0.38	0.32	0.11	楕円形		
0035	1	F7・F8	0.33	0.30	0.03	円形	0036→0035	

遺構名	工区	Gr.	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	重複関係	備考
0036	1	F7・F8	1.24	1.16	0.04	槽円形	0037 → 0036 → 0035	
0037	1	F8	0.44	(0.40)	0.03	円形	0037 → 0036	
0038	1	F7・F8	0.49	0.42	0.09	槽円形	0042 → 0038	
0039	1	F7	0.27	0.25	0.03	円形	0042 → 0039	
0040	1	F7	0.18	0.15	0.03	円形	0041 → 0040	
0041	1	F7	1.63	1.58	0.02	円形	0042 → 0041 → 0040	
0042	1	F7・F8	1.68	1.41	0.04	方形	0042 → 0038, 0039, 0040	
0043	1	E8・E9・F8・F9	4.88	2.01	0.52	方形	0044 → 0043	
0044	1	E8・E9	(5.78)	1.63	0.28	方形	0045 → 0044 → 0043	
0045	1	E8	0.34	(0.31)	0.10	円形		
0046	1	E8	0.42	0.33	0.08	槽円形		
0047	1	E7	0.66	0.55	0.03	槽円形		
0048	1	E7・F7	(0.85)	0.73	0.03	槽円形		
0049	1	F7	0.19	0.12	0.04	槽円形		
0050	1	F7	0.29	0.17	0.08	槽円形		
0051	1	E7	0.22	0.14	0.04	槽円形		
0052	1	E7	0.15	0.14	0.03	円形		
0053	1	G8・G9・H8・H9	1.43	1.17	0.27	槽円形		
0054	1	D7・D8	4.25	1.67	0.40	方形		
0055	1					不定形		
0056	1	16・17・J7	1.86	1.77	0.16	槽円形		
0057	1	J6・J7	0.47	0.38	0.05	槽円形		
0058	1	16・J6	0.33	0.32	0.03	円形	0059 → 0058	
0059	1	16・J6	0.31	0.23	0.04	槽円形	0059 → 0058	
0060	1	16・J6	4.18	2.91	0.11	不定形	0086, 0087, 0088, 0089 → 0060	
0061	1	J6	0.33	0.31	0.09	円形		
0062	1	J6	0.33	0.29	0.05	円形		
0063	1	J5	0.29	0.27	0.04	円形		
0064	1	16	0.69	0.54	0.29	槽円形		
0065	1	H6・H7・16・17	6.78	4.15	0.66	方形		
0066	1	G7	0.19	0.18	0.06	円形	0067 → 0066	
0067	1	G7	0.18	(0.17)	0.07	槽円形	0067 → 0066	
0068	1	G6・G7	0.34	0.22	0.08	槽円形		
0069	1	G6	0.42	0.32	0.05	不定形		
0070	1	G6	0.28	0.18	0.05	槽円形	0071, 0072 → 0070	
0071	1	G6	0.28	(0.27)	0.08	円形	0071 → 0070	
0072	1	G6	0.30	(0.19)	0.08	槽円形	0072 → 0070	

造構名	工区	Gr.	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	重複関係	備考
0073	1	G6	0.27	0.25	0.09	円形		
0074	1	G6	0.23	0.19	0.03	不定形		
0075	1	G6	0.32	0.26	0.08	楕円形		
0076	1	G6	0.22	0.21	0.10	円形		
0077	1	G6	0.42	0.29	0.03	不定形		
0078	1	F6・F7・G6・G7	4.46	1.39	0.44	方形		
0079	1	F6	0.59	0.43	0.06	楕円形		
0080	1	F6	0.35	0.34	0.06	円形		
0081	1	F6	1.46	1.01	0.10	楕円形		
0082	1	E7	0.17	0.11	0.08	楕円形		
0083	1	E7	0.18	0.15	0.09	円形		
0084	1	E7	3.21	1.72	0.51	方形		
0085	1	E7	0.20	0.16	0.05	楕円形		
0086	1	J6	0.32	0.29	0.18	円形	0086 → 0060	
0087	1	J6	0.41	0.28	0.15	不定形	0087 → 0060	
0088	1	J6	0.34	0.31	0.09	円形	0088 → 0060	
0089	1	J6	0.32	0.27	0.12	円形	0089 → 0060	
0090	1	E6	0.31	0.20	0.04	楕円形		
0091	1	D6	0.30	0.22	0.07	楕円形		
0092	1	D6・E6	0.43	0.36	0.12	楕円形		
0093	1	D6・E6	0.57	0.38	0.15	楕円形	0094 → 0093	
0094	1	D6	0.34	(0.33)	0.13	楕円形	0094 → 0093	
0095	1	D6	0.20	0.19	0.05	円形		
0096	1	D6	0.20	0.13	0.06	楕円形	0097 → 0096	
0097	1	D6	0.32	0.19	0.07	楕円形	0097 → 0096	
0098	1	D7	0.36	0.28	0.04	楕円形		
0099	1	D6	(0.50)	0.50	0.12	不定形		
0100	1	D6	0.92	0.37	0.09	楕円形		
0101	1	D6	1.35	0.34	0.07	不定形		
0102	1	D6	0.18	0.14	0.02	楕円形		
0103	1	C6	0.33	0.25	0.06	楕円形		
0104	1	C6	0.43	0.32	0.07	楕円形		
0105	1	B6	0.42	0.31	0.32	楕円形		
0106	1	B6	0.35	0.24	0.27	楕円形	0107 → 0106	
0107	1	B6	0.28	(0.23)	0.16	楕円形	0107 → 0106	
0108	1	B6・C6	0.33	0.25	0.25	楕円形		
0109	1	C6	0.43	0.32	0.26	楕円形	0110 → 0109	

遺構名	工区	Gr.	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	重複関係	備考
0110	1	C6	0.17	(0.15)	0.02	円形	0110 → 0109	
0111	1	C6	0.52	0.49	0.24	円形		
0112	1	B5・B6・C5・C6	0.34	0.30	0.12	円形		
0113	1	B5・B6	0.29	0.23	0.17	槽円形		
0114	1	B6	0.21	0.19	0.20	円形		
0115	1	B6	0.33	0.23	0.09	槽円形		
0116	1	J1・J2	2.06	1.55	0.38	方形		
0117	1	I2・J2	2.04	1.25	0.48	方形	0118 → 0117	
0118	1	I2・I3	3.47	1.61	0.58	方形	119 → 0118 → 0117	
0119	1	H2・I2	5.83	2.55	0.52	方形	0132 → 0119 → 0118	
0120	1	I1・I2	1.80	1.27	0.15	槽円形		
0121	1	H2	(0.38)	0.31	0.16	槽円形	0122 → 0121	
0122	1	H1・H2	0.70	(0.48)	0.07	槽円形	0132 → 0122 → 0121	
0123	1	H1	0.44	(0.25)	0.06	槽円形	0124 → 0123	
0124	1	H1	(0.36)	(0.35)	0.09	不定形	0125 → 0124 → 0123, 0127	
0125	1	H1	0.75	(0.55)	0.10	槽円形		
0126	1	H1	(0.25)	0.21	0.07	槽円形		
0127	1	H1	0.81	(0.57)	0.09	不定形	0124, 0126 → 0127	
0128	1	H1・I1	(2.71)	(1.23)	0.66	方形小		
0129	1	H1	0.24	0.19	0.04	槽円形		
0130	1	H2	0.26	0.21	0.06	槽円形		
0131	1	H1・H2	5.09	1.11	0.34	方形	0132 → 0131 → 0130	
0132	1	H1・H2	(3.34)	1.57	0.12	不定形	0132 → 0119, 0122, 0129, 0131	
0133	1	G2・G3	3.68	1.89	0.60	方形		
0134	1	G2	0.23	0.17	0.03	槽円形	0135 → 0134	
0135	1	G1・G2	2.64	2.44	0.18	円形	0150, 0152, 0165 → 0135 → 0134	
0136	1	F3	0.56	0.48	0.12	槽円形	0137, 0138 → 0136	
0137	1	F3	0.55	0.37	0.05	槽円形	0138 → 0137 → 0136	
0138	1	F3	0.58	(0.36)	0.05	槽円形	0138 → 0136, 0137	
0139	1	F3	0.21	0.15	0.05	槽円形	0140 → 0139	
0140	1	F3	0.40	0.33	0.14	槽円形	0167 → 0140 → 0139	
0141	1	F2	0.21	0.20	0.12	円形		
0142	1	F2	0.19	0.12	0.09	槽円形	0143 → 0142	
0143	1	F2	1.99	1.11	0.24	槽円形	0143 → 0142, 0144	
0144	1	F2	0.36	0.26	0.09	槽円形	0143, 0151 → 0142, 0144	
0145	1	F2	0.19	0.19	0.05	円形	0151 → 0145	
0146	1	F2	0.29	0.25	0.13	槽円形		

遺構名	工区	Gr.	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	重複関係	備考
0147	1	F2	0.19	0.15	0.04	槽凹形		
0148	1	F2	0.24	0.20	0.03	槽凹形		
0149	1	G2	0.26	0.20	0.07	槽凹形		
0150	1	F2・G2	(2.53)	1.32	0.23	不定形	0151,0152→0150→0135	
0151	1	F2・G2	2.78	(1.32)	0.08	不定形	0151→0144,0145,0150	
0152	1	F2・G1・G2	(2.24)	(0.79)	0.08	不定形	0151→0135	
0153	1	F2	0.17	0.13	0.06	槽凹形		
0154	1	F2	0.24	0.15	0.06	槽凹形	0155→0154	
0155	1	F2	(0.31)	0.30	0.10	槽凹形	0155→0154	
0156	1	F2	0.45	0.40	0.09	凹形		
0157	1	F2	0.24	0.18	0.03	不定形		
0158	1	F2	(0.16)	0.16	0.02	槽凹形		
0159	1	F2	0.62	0.39	0.10	槽凹形		
0160	1	F2	0.25	0.18	0.05	槽凹形		
0161	1	F2	0.22	0.18	0.02	槽凹形		
0162	1	F1	0.46	0.41	0.04	槽凹形		
0163	1	F1	0.35	0.29	0.03	槽凹形		
0164	1	F1	0.27	0.25	0.06	凹形		
0165	1							欠番
0166	1							欠番
0167	1	E2・E3・F2・F3	2.45	1.17	0.40	隅丸方形	0168,0247→0167→0140	
0168	1	E2・E3・F2・F3	2.70	2.43	0.42	隅丸方形	0168→0167	
0169	1	E2・E3	0.25	0.19	0.02	槽凹形		
0170	1	E2	0.21	0.16	0.03	槽凹形		
0171	1	E2	0.34	0.27	0.04	不定形		
0172	1	E2	0.17	0.15	0.02	槽凹形		
0173	1	E2	0.20	0.18	0.02	凹形		
0174	1	D2・E2	2.37	1.40	0.29	不定形	0175,0177→0174	
0175	1	D2・D3・E3	1.96	(1.89)	0.47	不定形	0176→0175→0174	
0176	1	E3	0.23	0.19	0.08	槽凹形	0176→0175	
0177	1	D2・E2	0.36	(0.29)	0.07	槽凹形	0177→0174	
0178	1	E2	0.29	0.23	0.19	槽凹形		
0179	1	E2	0.18	0.16	0.02	凹形		
0180	1	E2	0.22	0.20	0.02	凹形	0181→0180	
0181	1	E2	(0.18)	0.15	0.02	槽凹形	0181→0180	
0182	1	E2	0.34	0.28	0.03	不定形		
0183	1	D1・D2	5.92	0.62	0.13	溝状	0184,0199→0183→0193	

遺構名	工区	Gr.	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	重複関係	備考
0184	1	D2	1.17	0.45	0.21	槽円形	0212 → 0184 → 0183	
0185	1	D2	0.28	0.18	0.02	槽円形	0185 → 0184	
0186	1	D1	0.35	0.29	0.11	槽円形		
0187	1	D1・E1	1.09	0.66	0.11	不定形		
0188	1	D1・E1	2.84	1.56	0.41	不定形	0189 → 0188	
0189	1	E1	(1.80)	1.52	0.55	方形	0190 → 0189 → 0188	水渠通宝出土
0190	1	E1	(1.18)	(0.87)	0.48	不定形	0190 → 0189, 0192	
0191	1	E1	0.18	0.16	0.06	円形		
0192	1	E1	0.21	0.16	0.12	槽円形	0190 → 0192	
0193	1	D1	0.20	0.20	0.05	円形	0183, 0194 → 0193	
0194	1	D1	(0.41)	0.32	0.14	槽円形	0194 → 0193	
0195	1	D1	0.32	0.31	0.06	円形	0196 → 0195	
0196	1	D1	0.43	0.37	0.11	槽円形	0196 → 0195	
0197	1	D1	0.31	0.28	0.05	円形	0199 → 0197 → 0198	
0198	1	D1	0.21	0.20	0.05	円形	0199 → 0197 → 0198	
0199	1	D1	(0.85)	(0.71)	0.10	不定形	0199 → 0183, 0197, 0198	
0200								攪乱のため欠番
0201	1	D2	0.24	0.22	0.16	円形		
0202	1	C1・C2	2.98	1.02	0.04	不定形		
0203	1	C1・D1	3.41	1.56	0.35	方形		
0204	1	C2・C3	0.52	0.31	0.02	槽円形		
0205	1	C2	0.38	0.33	0.05	円形		
0206	1	C2	0.46	0.44	0.03	円形		
0207	1	C2	2.67	2.45	0.35	方形	0207 → 0206	
0208	1	C2	0.39	0.29	0.04	方形		
0209	1	B3	0.64	0.42	0.07	槽円形		
0210	1	B2	0.41	0.26	0.10	槽円形		
0211	1	B2	0.27	0.22	0.04	方形		
0212	1	J5	0.27	0.26	0.24	円形		
0213	1	J5	0.25	0.16	0.04	槽円形		
0214	1	J5	0.30	0.28	0.03	円形		
0215	1	J5	0.28	0.17	0.04	槽円形		
0216	1	J5	0.25	0.20	0.04	槽円形		
0217	1	J5	0.29	0.27	0.04	円形		
0218	1	I5	0.17	0.15	0.03	円形		
0219	1	I5	0.20	0.18	0.03	円形		
0220	1	I5	0.37	0.20	0.02	不定形		

遺構名	工区	Gr.	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	重複関係	備考
0221	1	15	0.21	0.19	0.05	円形		
0222	1	15	0.29	0.23	0.04	不定形		
0223	1	15	0.18	0.17	0.03	円形		
0224	1	14・15	2.22	1.06	0.27	不定形		
0225	1	14	0.41	0.25	0.05	楕円形		
0226	1	H5	1.62	0.67	0.02	不定形		
0227	1	H4・H5・I4	3.16	1.94	0.67	不定形		
0228	1	14	0.19	0.13	0.07	楕円形		
0229	1	H3・H4	0.80	0.45	0.22	楕円形	0230→0229	
0230	1	H3・H4	0.27	(0.20)	0.07	円形	0230→0229	
0231	1							欠番
0232	1	H3	0.81	0.69	0.13	不定形		
0233	1	G4	1.04	1.02	0.30	円形		
0234	1	G4	0.45	0.28	0.02	楕円形		
0235	1	F5・F6・G5・G6	2.71	1.37	0.28	方形		
0236	1	E4・E5・F4・F5	5.22	2.26	0.33	方形		
0237	1	E4・E5	(6.55)	2.40	0.50	方形	0237→0276	
0238	1	F3・F4	0.23	0.18	0.04	楕円形		
0239	1	F3	0.23	0.18	0.07	楕円形		
0240	1	F3	0.20	0.17	0.02	楕円形	0241→0240	
0241	1	F3	(0.24)	0.20	0.16	楕円形	0241→0240	
0242	1	F3・G3	0.23	0.17	0.03	楕円形		
0243	1	G3	0.25	0.21	0.02	楕円形		
0244	1	F3	0.54	0.31	0.08	楕円形	0246→0244	
0245	1	F3	0.40	0.28	0.07	楕円形	0246→0245→0137	
0246	1	F3	(1.69)	0.32	0.18	溝状	0246→0244,0245	
0247	1	E3・F3	(3.52)	1.33	0.45	不定形	0247→0167	
0248	1							欠番
0249	1	J3	0.30	0.22	0.09	楕円形		
0250	1	J3	0.31	0.22	0.05	楕円形		
0251	1	D3	0.19	0.19	0.05	円形		
0252	1	D4	0.50	0.49	0.04	円形	0253→0252	
0253	1	D3・D4・E3・E4	(4.66)	4.08	0.85	不定形	0253→0252	
0254	1	D4	0.53	0.29	0.07	楕円形	0255→0254	
0255	1	D4	(0.29)	0.29	0.04	不定形	0255→0254	
0256	1	E4	0.23	0.19	0.03	楕円形		
0257	1	D4	0.59	0.42	0.05	楕円形		

遺構名	工区	Gr.	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	重複関係	備考
0258	1	D4	0.23	0.21	0.04	円形	0263 → 0258	
0259	1	D4・D5	2.50	1.07	0.06	不定形	0262 → 0259	
0260	1	D5	0.73	0.43	0.09	不定形	0261, 0262 → 0260	
0261	1	D5	0.37	(0.34)	0.05	槽円形	0262 → 0261 → 0260	
0262	1	D4・D5・E4・E5	(2.64)	2.55	0.55	不定形	0262 → 0259, 0260, 0261, 0263	
0263	1	D4	0.62	0.60	0.09	方形	0263 → 0258	
0264	1	D5	3.02	1.82	0.59	方形		
0265	1	C4・D4	1.79	1.46	0.20	不定形		
0266	1	C3・C4	2.49	0.90	0.05	不定形		
0267	1	B4	0.49	0.42	0.04	槽円形	0268, 0269 → 0267	
0268	1	B4	0.55	0.45	0.11	不定形	0268 → 0267	
0269	1	B4・C4	1.63	1.14	0.10	槽円形	0269 → 0267	
0270	1	C3	0.41	0.31	0.08	槽円形		
0271	1	C3	0.38	0.28	0.07	槽円形		
0272	1	C3	0.46	0.41	0.03	槽円形		
0273	1	C3	0.79	0.71	0.04	槽円形		
0274	1	B3	0.36	0.21	0.06	槽円形		
0275	1	B3	0.81	0.69	0.11	槽円形		
0276	1	E5・E6・F5・F6	4.44	4.09	0.55	不定形	0276 → 0237	
0277	1	J5	0.28	0.13	0.02	槽円形		
0278	2	B15・B16	1.70	0.69	0.21	方形		
0279	3	D25	0.88	0.61	0.16	槽円形		
0280	3	D25	1.23	0.70	0.23	槽円形	0281 → 0280	
0281	3	D25	0.17	(0.15)	0.11	円形	0281 → 0280	
0282	4	A31・A32	(2.17)	(0.80)	0.38	方形		
0283	4	B31・B32	0.66	0.41	0.14	槽円形	0284 → 0283	
0284	4	A31・B31	1.39	0.57	0.19	槽円形	0284 → 0283	
0285	4	B31	0.87	0.70	0.14	槽円形		
0286	4	B31	3.44	0.58	0.17	溝状		
0287	4	C31・C32	(1.61)	1.51	0.38	方形		
0288	4	D32	0.32	0.20	0.12	槽円形		
0289	4	D32	(0.27)	0.25	0.08	槽円形		
0290	4	G31・G32	2.22	0.56	0.02	槽円形	0291 → 0290	
0291	4	G31・G32	(1.65)	0.92	0.62	方形	0291 → 0290	
0292	4	H32	0.51	0.41	0.08	槽円形	0293 → 0292	
0293	4	H32	0.68	0.46	0.12	方形	0293 → 0292	

第3表 遺物観察表

掲載番号	グランド	遺構番号	種別	器種	計測値 (cm)			土器型式・年代	技法の特徴など		胎土	焼成	色調		備考	
					口径長さ	底径幅	器高厚さ		内面	外面			マンセル数値	名		
1	B7, D8	S80054 ①	須恵器	盃杯の身	—	—	(2.3)	1-101号雲式7世紀中葉～後半	ロクロナゲ	ロクロナゲ、降灰	密良	—	10YR6/1	焼灰	産投産か	
2	J6	P0087 (SM0001)	須恵器	有台杯	—	(9.8)	(2.3)	0-10号雲式8世紀後半	ロクロナゲ、降灰	ロクロナゲ、ユビナゲ、ケズリ、船付け高台、降灰、麩粉	密良	6/	—	灰白	産投産	
3	D3, D4, E3, E4	S80253 ④	灰釉陶器	皿	(10.9)	—	(2.6)	K-14～K-90号雲式	ロクロナゲ、施釉	ロクロナゲ、施釉、麩粉	密良	—	釉薬：5Y6/2 胎土：5Y7/1	—	釉薬：灰オリーブ胎土：灰白	
4	G6, G9, H9, H9	S80053 ①	山茶碗	碗	15.5	7.6	5.0	瀬美湖西型第5型式か	ロクロナゲ、ユビオサニ、榎殻灰、降灰	ロクロナゲ、ユビオサニ、榎殻灰、回転糸切痕、船付け高台、付着物あり、降灰	密良	—	10YR7/1	—	灰白	
5	E4, E5	S80237 ②	山茶碗	碗	—	4.8	(2.7)	家濃型大塚大塚4号雲期	ロクロナゲ、指圧痕	ロクロナゲ、板目状圧痕、榎殻灰、回転糸切痕、船付け高台	密良	—	10YR7/1	—	灰白	
6	H6, H7, I6, I7	S80065 ①	山茶碗	碗	—	(3.8)	(2.5)	家濃型大塚東1号雲期	ロクロナゲ、指圧痕、降灰	ロクロナゲ、ユビナゲ、板目状圧痕、榎殻灰、回転糸切痕、船付け高台	密良	2.5YR/1	—	—	灰白	
7	F6, F7, G6, G7	S80078 ①	山茶碗	小皿	8.1	4.6	1.5	家濃型大塚東1号雲期	ロクロナゲ、指圧痕	ロクロナゲ、板目状圧痕、回転糸切痕、降灰	密良	—	5YR/1	—	灰白	
8	F6, F7, G6, G7	S80078 ②	山茶碗	小皿	7.9	5.2	1.4	家濃型大塚東1号雲期	ロクロナゲ、指圧痕	ロクロナゲ、板目状圧痕、回転糸切痕、墨書	密良	—	10YR7/1	—	灰白	
9	E2, E3, F2, F3	S80168	陶器	片口鉢	(3.4)	—	(9.9)	尾巻型第5または6型式	ロクロナゲ、降灰	ロクロナゲ、回転ヘラケズリ	密良	—	2.5Y7/1	—	灰白	内側：使用による摩耗 産投産
10	H7, H8, I8a, I7, I8, I9	S80003 ②	陶器	飯または親子か	—	—	(5.0)	古瀬戸前期様式	ユビナゲ、露胎	ヘラナゲ、施釉	密良	—	釉薬：2.5Y6/3 胎土：2.5Y7/1	—	釉薬：灰白 胎土：灰白	
11	D1, E1	S80188	陶器	花瓶	—	(6.7)	(7.3)	古瀬戸後期様式後半	ロクロナゲ、シボリ痕、露胎	ロクロナゲ、回転糸切痕、施釉（鉄釉）、露胎	密良	—	釉薬：10YR2/1 胎土：10YR7/1	—	釉薬：黒胎土：灰白	
12	E2, E3, F2, F3	S80168	陶器	三筋蓋	—	(7.9)	(11.7)	—	ユビナゲ、強い横方向のユビナゲ、降灰	ヘラナゲ、辻巻、不調整、ハガレ、降灰	密良	—	2.5Y7/1	—	産地不明 外家の降灰一部ハケリ	
13	D3, D4, E3, E4	S80253 ③	陶器	壺	—	—	(7.5)	—	ヘラナゲ、ユビナゲ、ユビオサニ、粘土痕	ナゲ、降灰	密良	—	10R5/4	赤褐色	常産産	
14	H6, H7, I6, I7	S80065 ②	青磁	碗	—	—	(2.4)	—	ロクロナゲ、施釉	ロクロナゲ、露胎弁文、施釉	密良	—	釉薬：2.5G7/1 胎土：6/	—	釉薬：明オリーブ胎土：灰白	
15	D3, D4, E3, E4	S80253 ④	青磁	碗	—	—	(3.7)	—	ロクロナゲ、施釉	露胎弁文、施釉	密良	—	釉薬：2.5G7/1 胎土：7/	—	釉薬：明オリーブ胎土：灰白	
16	D5	S80260	白磁	碗	—	(5.6)	(2.4)	—	ロクロナゲ、施釉	ロクロナゲ、ケズリ、削出し高台、施釉、露胎	密良	—	釉薬：10YR/1 胎土：7.5YR/1	—	釉薬：灰白胎土：灰白	
17	D9	検出	古代瓦	平瓦	(4.9)	(6.4)	1.8	古代	凹面：赤目痕、榎殻灰、ケズリ 凸面：ナゲ、縄目タタキ 側面：ヘラ切り	—	密良	—	10YR8/2	—	灰白	
18	E8, E9, F8, F9	S80045 ①	石製品	硯石	12.7	6.5	4.8	—	ほぼ全面を使用 左側面は欠損後も使用可	—	—	—	—	—	—	
19	E1	S80189	金属製品	銅鏡	2.5	2.5	0.1	初時1408年	—	—	—	—	—	—	—	赤銅塗寶
20	I2, I3	S80118	木製品	網代	—	1.8	0.1	—	1本結え、1本滑り、1本送り、四ツ目編み	—	—	—	—	—	—	榎材：ヒノキ 木取り：割り製 き

写 真 图 版



1. 1工区 調査区 土層断面状況 1 (南東から)



2. 1工区 調査区 土層断面状況 2 (南東から)



3. 1工区 調査区 土層断面状況 (北西から)



4. 1工区 調査区 土層断面状況 (南西から)



5. 1工区 SA0001 完掘状況 (上が北)



6. 1工区 P0086 土層断面状況 (西から)

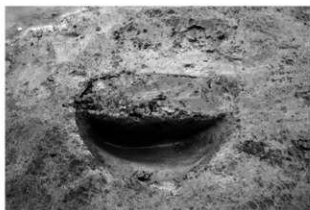


7. 1工区 P0087 土層断面状況 (西から)



8. 1工区 P0087 遺物出土状況 (南西から)

写真図版 2



9. 1工区 P0088 土層断面状況 (西から)



10. 1工区 P0089 土層断面状況 (西から)



11. 1工区 SK0002 土層断面状況 (西から)



12. 1工区 SK0002 土層断面状況 (東から)



13. 1工区 SK0002 完掘状況 (南西から)



14. 1工区 SK0003 土層断面状況 (南東から)



15. 1工区 SK0003 土層断面状況 (北西から)



16. 1工区 SK0003 完掘状況 (西から)



17. 1工区 SK0043 土層断面状況 (南東から)



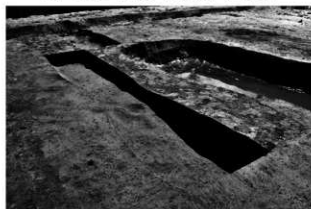
18. 1工区 SK0043 土層断面状況 (北西から)



19. 1工区 SK0043 完掘状況 (西から)



20. 1工区 SK0044 土層断面状況 (南東から)



21. 1工区 SK0044 土層断面状況 (北西から)



22. 1工区 SK0044 完掘状況 (西から)

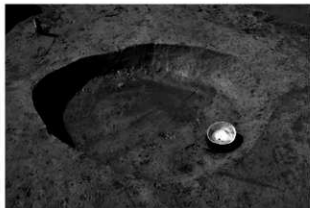


23. 1工区 SK0053 土層断面状況 (南東から)



24. 1工区 SK0053 土層断面状況 (北西から)

写真図版 4



25. 1工区 SK0053 遺物出土状況 (南東から)



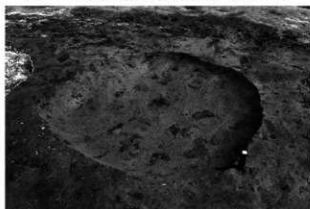
26. 1工区 SK0053 完掘状況 (南東から)



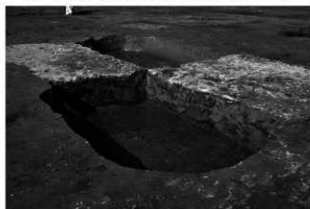
27. 1工区 SK0056 土層断面状況 (南西から)



28. 1工区 SK0056 土層断面状況 (北東から)



29. 1工区 SK0056 完掘状況 (南西から)



30. 1工区 SK0065 土層断面状況 (南西から)



31. 1工区 SK0065 土層断面状況 (北東から)



32. 1工区 SK0065 完掘状況 (西から)



33. 1工区 SK0078 土層断面状況 (南西から)



34. 1工区 SK0078 土層断面状況 (北東から)



35. 1工区 SK0078 遺物出土状況 (南から)



36. 1工区 SK0078 完掘状況 (西から)



37. 1工区 SK0117 土層断面状況 (南西から)



38. 1工区 SK0117 土層断面状況 (北東から)



39. 1工区 SK0117 完掘状況 (東から)



40. 1工区 SK0118 土層断面状況 (北東から)

写真図版 6



41. 1工区 SK0118 土層断面状況 (南西から)



42. 1工区 SK0118 遺物出土状況 (東から)



43. 1工区 SK0118 完掘状況 (東から)



44. 1工区 SK0119 土層断面状況 (南東から)



45. 1工区 SK0119 土層断面状況 (北西から)



46. 1工区 SK0119 完掘状況 (東から)



47. 1工区 SK0131 土層断面状況 (北東から)



48. 1工区 SK0131 土層断面状況 (南西から)



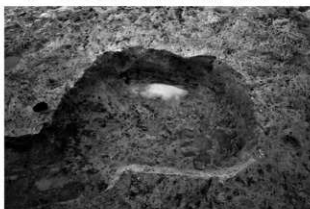
49. 1工区 SK0131 完掘状況 (東から)



50. 1工区 SK0168 土層断面状況 (北東から)



51. 1工区 SK0168 土層断面状況 (南西から)



52. 1工区 SK0168 完掘状況 (東から)



53. 1工区 SK0189 土層断面状況 (北から)



54. 1工区 SK0189 遺物出土状況 (北東から)



55. 1工区 SK0189 完掘状況 (東から)



56. 1工区 SK0207 土層断面状況 (北東から)

写真図版 8



57. 1工区 SK0207 土層断面状況 (南西から)



58. 1工区 SK0207 完掘状況 (東から)



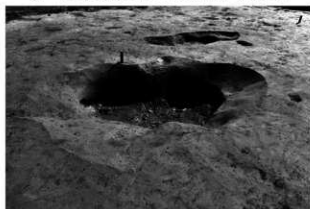
59. 1工区 SK0227 土層断面状況 (北から)



60. 1工区 SK0227 土層断面状況 (南から)



61. 1工区 SK0227 土層断面状況 (東から)



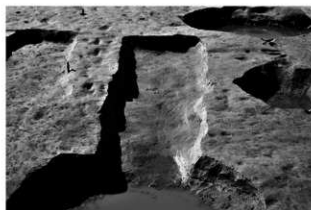
62. 1工区 SK0227 完掘状況 (西から)



63. 1工区 SK0237 土層断面状況 (南西から)



64. 1工区 SK0237 土層断面状況 (北東から)



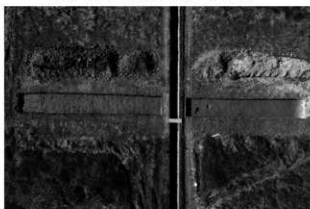
65. 1工区 SK0237 完掘状況 (東から)



66. 2工区 調査区全景 (上が東)



67. 2工区 調査区 土層断面状況 (東から)



68. 3工区 調査区全景 (上が東)



69. 3工区 調査区 土層断面状況 1 (北西から)



70. 3工区 調査区 土層断面状況 2 (北西から)



71. 4工区 調査区全景 (上が東)



72. 4工区 調査区 土層断面状況 1 (南東から)

写真図版 10



73. 4工区 調査区 土層断面状況2 (南東から)



74. 4工区 SK0287 土層断面状況 (南から)



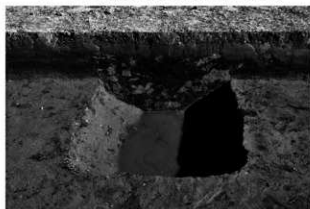
75. 4工区 SK0282 土層断面状況 (西から)



76. 4工区 SK0282 完掘状況 (南西から)



77. 4工区 SK0287 土層断面状況 (西から)



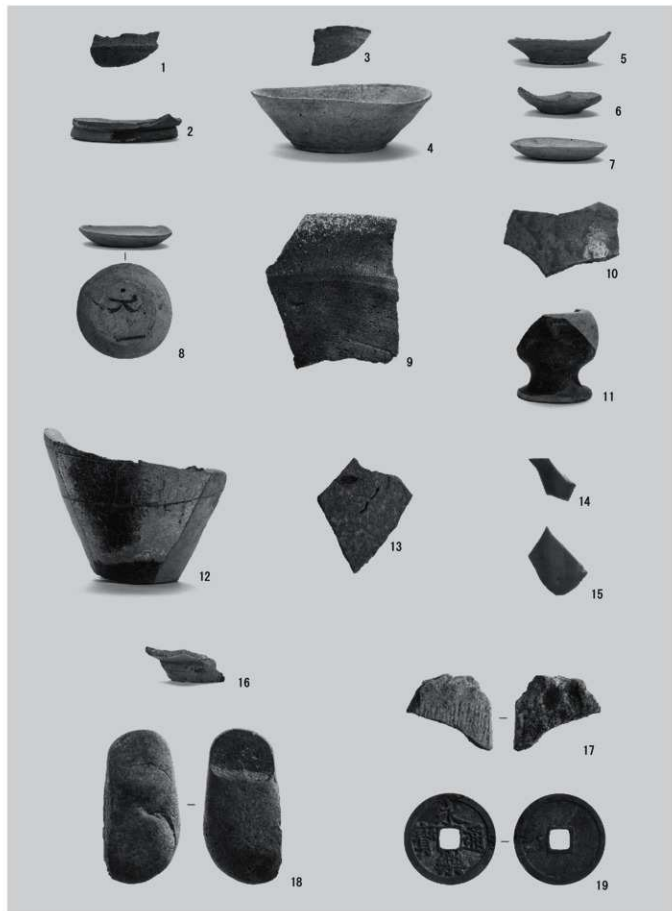
78. 4工区 SK0287 完掘状況 (西から)



79. 4工区 SK0291 土層断面状況 (東から)



80. 4工区 SK0291 完掘状況 (東から)



出土遺物

報告書抄録

ふりがな	はやしのさぎみやいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	林野鷺宮遺跡発掘調査報告書							
副書名	物流施設建設工事に伴う発掘調査報告書							
編著者名	田邊一元 今西菜見 宮崎 直 小林克也(バレオ・ラボ)							
編集機関	株式会社イピック名古屋支店							
所在地	愛知県名古屋市中区丸の内二丁目18番14号 902号							
発行機関	アートプラン株式会社							
所在地	東京都千代田区永田町二丁目11番1号山王パークタワー3F							
発行年月日	令和5年(2023)10月20日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	°'〃	°'〃			
林野鷺宮遺跡	愛知県 一宮市 萩原町 林野字鷺宮 15番1他	23203	020229	35° 16' 47"	136° 46' 44"	令和4年 (2022) 7月11日 ～ 令和4年 (2022) 12月3日	2,355㎡	物流施設 建設
遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
林野鷺宮遺跡	散布地	古代～中世		土坑 ビット		土師器、須恵器 灰釉陶器、青磁、 山茶碗、土師質土器、 陶磁器、古代瓦、 網代		
要約	<p>林野鷺宮遺跡は、沖積平野である濃尾平野の後背湿地域に位置する。本遺跡周辺には、日光川水系によって形成された自然堤防上に多くの遺跡が確認されており、萩原遺跡群と呼称されている。</p> <p>調査地は全部で4か所あり1～4工区の名称を付した。285基の遺構を検出し、主だった遺構は25基の方形土坑と10基のビットによって構成される柱穴列である。大部分の遺構が1工区にて確認されている。基本層序Ⅰ～Ⅲ層は近現代以降の水田に係る層である。Ⅳ及びⅤ層も水田開墾を行った痕跡の層で、その際にⅤ層(地山)を削平していると考えられ、方形土坑以外の遺構は全体的に浅いものとなっている。本調査の方形土坑を見てみると、断面形が箱型を呈し、床面は平坦であるものの、単一層で埋没していないものが多い。床面付近のシルト層は大部分が水性堆積と確認できた。検出面より40cmほど掘削すると湧水することもあったため、貯蔵を目的としているとは考え難く、方形土坑の目的や意図は、今回の調査でも結論できる根拠は確認できなかった。</p> <p>出土した遺物は6～15世紀代と幅広いが、その大部分を占めるのは12世紀後半から15世紀代の遺物であり、これらからも上述の方形土坑と辻褄が合うとも考えられよう。</p>							

林野鷺宮遺跡発掘調査報告書

—物流施設建設工事に伴う発掘調査報告書—

令和5年10月20日発行

- 編集 株式会社イビソク名古屋支店
〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内二丁目18番14号902号
TEL 052-228-0213
- 発行 アートプラン株式会社
〒460-0003 東京都千代田区永田町二丁目11番1号
山王パークタワー3F
TEL 03-3507-1711
- 印刷製本 西濃印刷株式会社
〒500-8074 岐阜県岐阜市七軒町15
TEL 058-263-4104

